ようこそ！
いたばしの
SDGsへ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



特定非営利活動法人
SDGsいたばしネットワーク

はじめに

「誰も置き去りにしない・されない」地域を・世界を。

私たちが編集した今回の「ようこそ！いたばしのSDGsへ」は、国連発のSDGsの根本理念「誰も置き去りにしない・されない」に深く強く共感し、私たちの思いや活動を伝えるために作成しました。

また、この「誰も置き去りにしない・されない」を実現するのは、なによりも私たち一人ひとりの思いがつながり、お互いの力を出し合うなかで、一つひとつ・一歩一歩進めていけるとの思いからです。

SDGs「持続可能な未来づくり（開発）17目標・169ターゲット」が示すように、私たちの足元の地域を見ても、また視野を広げて世界・地球を見ても、課題は溢れんばかりに山積しています。

であるからこそ、国連は、いま最も苦しんでいる一人ひとりに、そして「持続可能」の主役の子どもたちへ、希望の未来を引き継ぐため、具体的な目標の実現を私たちに求めているのだと認識し協働して取り組んでいきたいと思います。

その中にあって、私たちは全くの想定外であった「コロナ禍」の渦中にいます。感染者は既に世界で2億人を超え、死者は400万人を超えています。

まさに、偉人マホトマ・ガンジーの「わたしたちは宇宙船地球号の一員」の至言を、世界が共通体験しています。

このような中で、当冊子は様ざまな人たちの協力を得て発行することができました。当冊子が学校、地域、活動関係、企業・・・など、そして子ども・若者から経験豊かな大人の皆さんが手にして新たな繋がりをつくり出し、“一人ひとりが生き生きと輝き、希望の持てる地域を・世界を”の一助になることを願っております。

皆さん一人ひとりの行動から、「誰も置き去りにしない・されない」未来に変えていけるよう、力を合わせて頑張りましょう。

2021年8月7日

特定非営利活動法人SDGsいたばしネットワーク
代表理事　加藤勉



CONTENTS　もくじ

はじめに 1

CONTENTS(もくじ) 2

メッセージ:坂本健さん(板橋区長) 3

:新田英理子さん(一般社団法人SDGs市民ネットワーク理事・事務局長) 4

今、なぜ板橋でSDGsなのか？：SDGsいたばしネットワークの経緯 5

そもそもSDGsって何？ 7

誰も置き去りにしないために：今、気になっていること・関心をもっていること 11

グラフが語る板橋のコロナ禍の課題 15

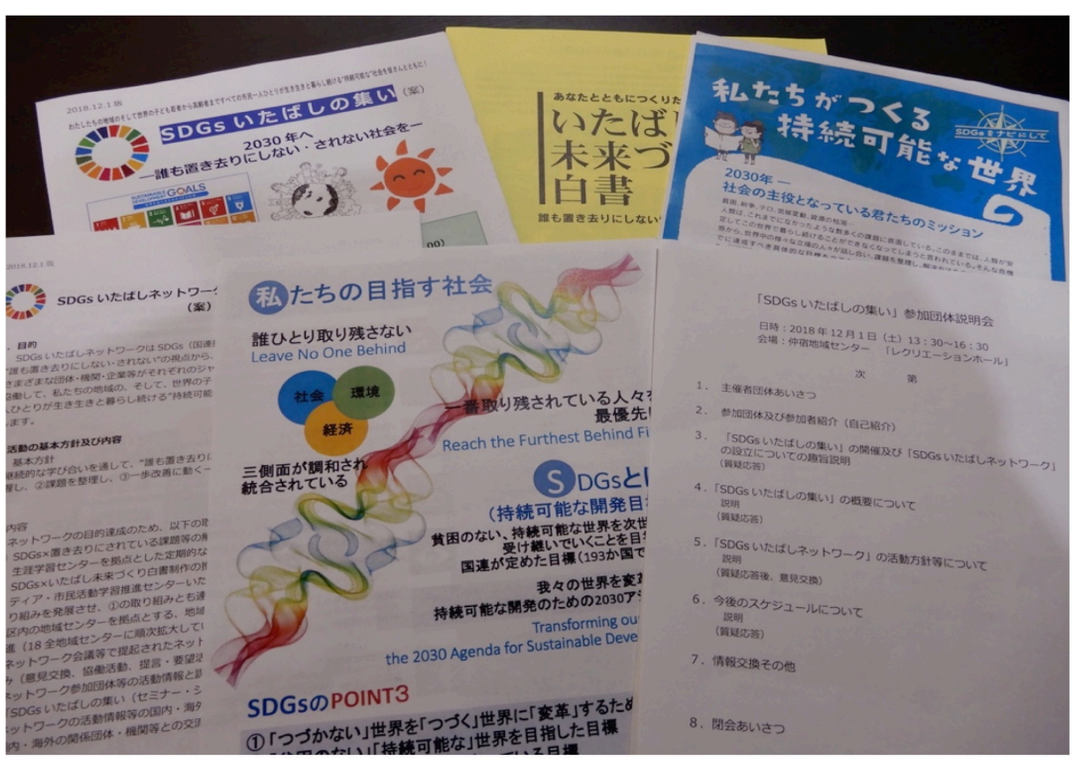
コロナ禍の今、考えたいこと～新型コロナウイルス感染対策とSDGs～ 19

私たちは負けない・私たちは立ち上がる　私たちは、誰一人取り残さない 21

今、私たちが取り組んでいること：板橋SDGs活動のご紹介 23

素晴らしき板橋のSDGs仲間たち 27

板橋SDGsのこれから 37



SDGsいたばしネットワークへの期待



板橋区
区長　坂本健

今まで様ざまな活動を続けてこられた貴団体「SDGsいたばしネットワーク」が、特定非営利活動法人の設立が順調に進められ、この度、情報誌「ようこそ！いたばしのSDGs へ」が刊行されますことに、心よりお祝いを申し上げます。

また、「SDGsいたばしネットワーク」におかれましては、設立以来の絶え間ない各種取り組みに敬意を表しますとともに、永きにわたり地域づくりや地域貢献のためにお力添えいただいておりますことに改めてお礼を申し上げます。

情報誌冒頭の加藤理事長のあいさつ文、「誰も置き去りにしない・されない地域を・世界を。」は、まさにSDGsの理念そのものです。新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見えず、これまでの価値観や生活様式が変わりつつある中において、人が生きていくうえで人と人のつながりや支え合うことの大切さは変わらないものと考えます。

さて、昨年から猛威を振るい続けている新型コロナウイルス感染症の影響や国による不合理な税制改正に伴う減収により、区政はかつて経験したことのない困難に直面しています。このような激変する社会環境の変化に対応するため、令和３年１月に「いたばしNo.１実現プラン2025」を策定いたしました。

プランの中では、新型コロナウイルス感染症対策はもとより、ポストコロナ時代の「新たな日常」を見据えた戦略の一つとして「SDGs」戦略を掲げ、「誰一人取り残さない、安心安全なまち」の実現をめざしてまいります。

最後になりますが、本日の刊行を契機としまして、貴団体の今後益々のご発展と皆様のご活躍を心より祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和3年8月７日

多くの人とつながりSDGsの達成

一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク
理事・事務局長　新田英理子



SDGsの達成期限、2030年まであと9年。みなさん、2030年は何歳ですか？
そして9年前（2012年/平成24年）、みなさんは何歳でしたか。何をしていましたか？
ちょっと、目を閉じて考えてみてください。

代表の加藤勉さんに初めてお目にかかったのは、2017年7月（今から4年前？！）。加藤さんも私も東京都に拠点を持つ市民活動に助成を行う財団の勉強会に呼ばれ、私は全国の状況を、加藤さんは板橋で進めておられる活動の情報提供をした、研修会場でした。

当時、SDGsは、社会全般では、まだ、「海のものとも山のものともわからないもの」として扱われていました。しかしながら、加藤さんたちが板橋で取り組んでおられたみんなのたすけあいセンターいたばしの活動も、みんなのせんたーおむすびの活動も、もう、すでに、こんなにも本質的にSDGsの達成に向かって実践しておられるではないか！！と衝撃を受けたことは、今でもはっきりと覚えています。

それからしばらくして、「大ホールに活動団体が参集するから、講師に来てほしい」と声をかけていただきました。その集いの準備にも関わらせていただく中で、2度目の衝撃を受けました。中学生から70代の方、行政の方、学校の先生、町会の方、NGOの方、高齢者介護の仕事をしている方、児童館の仕事している方など、国連がSDGsを策定する過程で議論を続けてきたMGOS（※１）によるプロセスで議論をしておられました。

目標をはっきりさせる。高い目標をみんなと共有する。具体的にする。みんなで実践する。できることからやる。これらは、SDGsいたばしネットワークが、この間、ずーっと実践されてきたことです。

SDGsは、このままのやり方では持続不能になりつつある地球上の経済活動と社会活動を、「誰一人置き去りにせずに、持続可能な社会」にするための目標ですが、私は、17の目標と同じくらい、残り9年は、「どうやってやるか」が重要になっていると思っています。

そこで、重要になるのが、SDGsいたばしネットワークが実践されている、上記のやり方です。この冊子には、SDGs達成のための、実践のヒントが随所に書かれています。

ぜひ、みなさん、この冊子を読み込み、SDGs達成のための実践のヒントをどんどんつかみ取っていただけたら大変うれしいです。そして、読んで、ワクワクされたら、一緒に活動に参加してみてください。

みなさん。冒頭に書いた、9年前、何をされていたか、思い出していただけましたか。2021年の現在、9年前と社会は大きく変わりました。そうです。ですから、これから先の9年も私たち一人一人の力で変えることができるのです。

私たち、SDGs市民社会ネットワークも一人でも多くの市民社会を目指す方々とつながり、SDGsの達成に向けて活動ができるように進んでいきたいと思います。

SDGsいたばしネットワークのこれからの発展をますます期待しています。

(※1)MGOS・・・メジャーグループアンドアザーステークスホルダーズの頭文字。国連でSDGs等が議論されるときに、様ざまな立場や年代の人たちが議論に参加し関わって、決定していくこと。
参考https://sustainabledevelopment.un.org/mgos

今、なぜ板橋でSDGsなのか？





SDGsいたばしネットワークの経緯

＜SDGsいたばしネットワーク＞の設立は2019年3月23日ですが、その活動は20年前にさかのぼり、板橋区生涯学習センター(まなぽーと大原/成増)との協力学習で学んだ地域課題や世界の課題の蓄積から育まれたものです。

「SDGsいたばし宣言」(2019年3月23日)

今、かけがえのない命が、そしてかけがえのない母なる地球が悲鳴をあげています。この尊い生命を、この尊い地球を、そして、この地域を守りたい…

世界中の国々は2030年に向けて、国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)－貧困のない、持続可能な世界を次世代に受け継いでいくため、貧困、飢餓、健康、福祉、教育、ジェンダー、格差、環境、平和など17の目標の達成に取り組んでいます。

今ここに、＜SDGsいたばしネットワーク＞の設立趣旨である、私たちの地域"いたばし"の、そして、世界のこども・若者から高齢者まですべての市民一人ひとりが誰も置き去りにされず、生き生きと暮らし続けることができる"持続可能な"社会の実現をめざす取り組みに賛同する176団体の参加協力を得て開催された「SDGsいたばしの集い」に参加した私たちの総意として、本日、次のとおり宣言します。

1．「誰も置き去りにしない・されない社会」の実現をめざし、私たち一人ひとりが人間の尊厳を脅かす課題を直視し、垣根や差異を超えてつながり合い、ともに学び合い、協力しあいます
2．置き去りにされている課題を身近な地域で学び合える場づくりに取り組むとともに、私自身の課題として学びます
3．未来の希望である子どもたち・次世代をみんなで守り育み、子どもたちが参画できるまちづくりに取り組みます
4．私たちの、そして、＜SDGsいたばしネットワーク＞の取り組みを広く発信し、日本と世界の人びとと友だちになります







第44回～第140回いたばしボランティア市民活動フォーラム(共催)

～第38回板橋ふれあい祭（50余団体:共催）











2030

NHK スペシャル 2030

2021

「SDGsいたばしの集い」（176団体）

2019

「SDGs」スタート！

2016

支援活動

陸前高田
飯館村

2013

「いたばしまちの学校」

「いたばしピース芸術祭」（31団体）

2011

東日本大震災

「いたばしピース映画祭」（61団体）

2010

2008 「ともに創る未来のための学びのネットワークの集い」(41団体)

2006 「持続可能な未来のための教育の10年」を私たち区民の手で（34団体）



2005 ESD年スタート！

学習活動と並行して多くの区民が集い合えるイベントも行ってきました。2019年3月23日に行った「SDGsいたばしの集い」は176団体の参加のもとで、SDGsの理念「誰も置き去りにしない・されない」について参加者と共に確かめ合いました。そして現在、様ざまな活動を推進しています。

分野	回数	月日	テーマ
ボランティア	第1回	1998年5月30日（土）	世界のみんなと手をつなごうよ～NGOで国際協力ボランティア
福祉	第15回	2001年2月10日（土）	介護保険制度の課題を考える～地域住民と行政の取り組みを学ぶ～
子育て	第50回	2003年9月3日（水）	かけがえのない子どもたちの命と未来をまもるために
人権	第18回	2001年6月17日（日）	日々の暮らしの中にある「差別・偏見，心のバリア」を考える
平和	第37回	2002年8月24日（土）	「ガンジー」の足跡が語る「平和学」「人権学」「人間学」を考える
まちづくり	第7回	1999年12月5日（日）・23日（木）	街を歩いて“バリアフリー”を考える
ESD	第44回	2003年6月10日（火）	「国連・持続可能な未来（開発）のための教育の10年」に向けての相互学習
教育（1）	第48回	2003年8月6日（水）	「総合的な学習の時間」で学校と地域の連携を考える
教育（2）	第34回	2002年5月25日（土）	「総合的な学習の時間」で問われる“学びの豊かさ”、そして私たちの関わり
災害	第99回	2012年3月24日（土）	フィルムフォーラム「飯館村のおかあちゃんたち」
ESD	第108回	2014年9月13日（土）・10月4日（土）	板橋54万人・一人ひとりの尊厳を実現する地域文化を目指して ～ESD10年の学びとこれからの実践～
SDGs	第131回	2019年3月23日（土）	SDGs区民の集い “誰も置き去りにしない社会を目指して”
子ども・若者	第140回	2021年2月14日（日）	子ども、若者支援者ネットワークの集い

1998 「自分発・地球経由・地域着」ESD10年に向けて

そもそもSDGsって何？

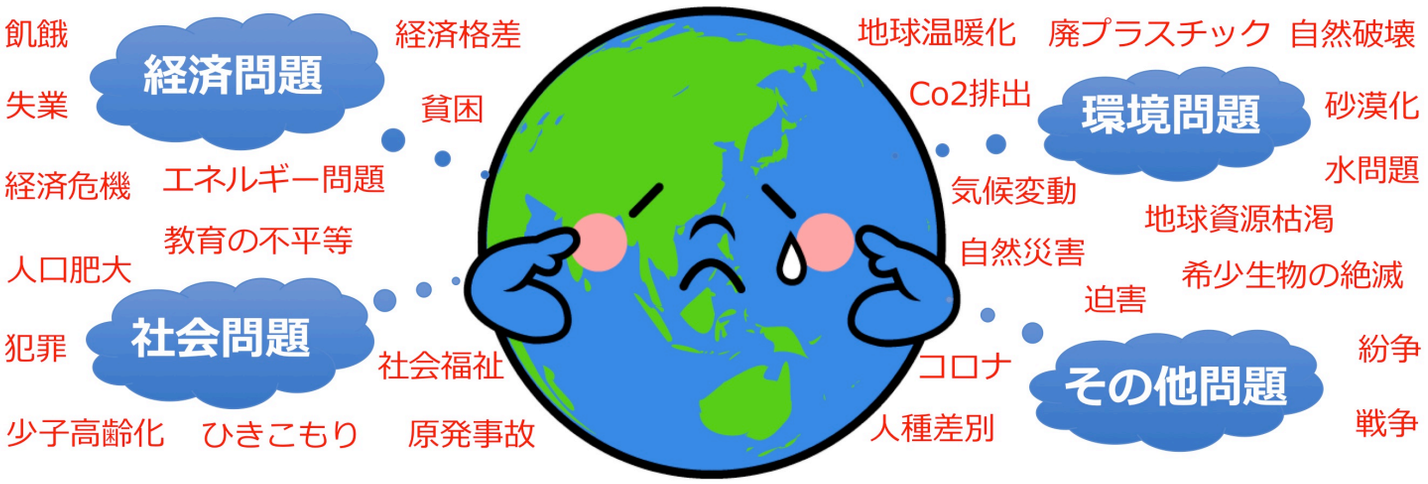
SDGsという言葉は聞いたことはあるけれど、その内容についてまで詳しく知らないという方も多いのではないでしょうか？
今や小学校の授業でも取りあげられているSDGsについて、まずはここでその概要をご説明しましょう。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

■地球には様ざまな問題がうずまいています

私たちが生きている地球には、今、様ざまな問題が起きています。例えば、経済問題でいえば「先進国と途上国の経済格差」や「労働環境」や「失業率」。社会問題では「貧困」や「差別」や「少子高齢化」や「フードロス」や「紛争」など。そして、環境問題では「地球温暖化」や「天然資源の枯渇」や「自然災害」や「廃プラスチック」など・・・。

こうした問題をそのままにしていたら、ますます地球は問題が山積みとなり、厳しい未来が待っていることは想像に難しくありません。そこで、こうした問題をこれ以上、引き起こさないために、世界中の人びとが集まり考え、ともに問題を共有化して解決の道を切り拓いたのがSDGsなのです。



■SDGsは世界共通の取り組みとしてスタートしました



SDGsは、左図のように「SUSTAINABLE　DEVELOPMENT GOALS」(持続可能な開発目標)の略称です。2015年９月に開催された国連サミットで、国連加盟193ヵ国が採択した、2016年から2030年までの15年間で達成するために掲げた国際社会共通の目標なのです。

もちろん日本もその採択に加わっており、全国の都道府県や私たちが生活する板橋区も当事者の一人として、すでに一つひとつの事業に対してSDGsの目標を関連付けて、目標の達成をめざして事業の推進をしています。そういう意味では、私たち板橋区民一人ひとりの目標でもあるということです。

■SDGsは17の目標達成をめざしています

SDGsには、大きく分けると17の目標が掲げられています。それらの目標は、右図のように“経済”と“社会”と“環境”の3つの分野に分けられ、各分野と横断的に関わる枠組みで構成されています。

そして、この図がウェディングケーキに似ていることから、SDGsの概念を表す構造を、「SDGsウェディングケーキモデル」と呼ばれているのです。

なお、SDGsは2000年に国連のサミットで採択された「MDGs（エム・ディージーズ：ミレニアム開発目標）」が、2015年に達成期限を迎えたことを受け、それに代わる新たな世界の目標として定められました。

MDGsについては、先進国が決めたものであり、地域の偏りなどの見落としがあったとも指摘されたため、それを受けて“誰ひとり取り残さないこと”を目指し、先進国と途上国が一丸となって達成すべき目標で構成されているのが特徴です。



■17の目標には169のターゲットと232の指標が設定されています



SDGsが設定した17の目標は、ある意味とても抽象的な言葉でつくられています。従って、それぞれの目標を達成するために、様ざまな問題を具体的かつ細分化して定めた169のターゲット(的)が掲げられ、さらにそのターゲットの進捗状況や成果を測るために232のグローバル指標が設けられているのです。

このグローバル指標が設定されたことにより、抽象度が高い目標やターゲットを、具体的な目標値や達成度に数値化できるので、ターゲット(的)に対して狙いを定め、指標によってどこまで的を得ることができたかの判定ができるというわけです。

なお、232のグローバル指標は、世界的な視点で設定されているので、それぞれの国においてローカライズ(地域化)して用いられています。

途上国では１日1.９ドル未満を“国際的貧困ライン”として定めて絶対的貧困の解消をめざしていますが、先進国では国や地域の平均的な生活水準を基に相対的貧困の撲滅を進めていることも、そうした事例のひとつです。

＊SDGsの各目標・ターゲット・指標については、総務省が仮訳を公開しており、以下より入手可能です。
http://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/kokusai/02toukatsu01_04000212.html

■17の目標はどれも私たちにとって大切なテーマです



“誰も置き去りにしない・させない”社会を実現するSDGsの17の目標は、世界が一丸となって達成することが求められています。この地球上には17の目標に無縁な人は、誰一人いません。従って、世界中の国や自治体や企業だけでなく、私たち一人ひとりがそれぞれの目標の達成に力を尽くすことが重要とされています。



貧困をなくそう

貧困はさまざまな要因が複雑に絡み合った深刻な問題。あらゆる場所や形態の貧困を終わらせます。



飢餓をゼロに

世界中で飢餓を無くし、食料安全保障や栄養改善を実現。持続可能な農業で農業生産性を改善します。



すべての人に健康と福祉を

健康・医療・保健サービスは、すべての国で人間生存にとって必須要件。医療格差も無くします。



質の高い教育をみんなに

持続可能な社会づくりや未来の構築には、すべての人が教育を受けられる学びの場が必要です。



ジェンダー平等を実現しよう

男女間の不平等は、途上国・先進国で解決が急務。性的少数者への差別や偏見も無くします。



安全な水とトイレを世界中に

水の確保は人類存続の必須要素。水道などのインフラ整備や、トイレや下水道の整備も欠かせません。



エネルギーをみんなに、クリーンに

すべての人びとへの安価かつ信頼のできる持続可能なエネルギーへのアクセスを確保します。



働きがいも経済成長も

持続可能な経済成長に欠かせない雇用創出や起業、「働きがいのある人間らしい仕事」が重要です。



産業と技術革新の基盤をつくろう

世界の繁栄に持続可能な産業化の促進と、災害などに強いインフラ開発や整備、技術革新が必要です。



人や国の不平等をなくそう

国家間の格差解消はもちろん、国内における経済的格差や各種差別を無くして多様性を認め合います。



住み続けられるまちづくりを

都市化の問題をはじめ多くの課題を解決して、効率的で参加型の都市計画や管理を実践していきます。



つくる責任つかう責任

商品やサービスの生産・消費方法を工夫し、環境への負荷を減らし、生活の質の向上をめざします。



気候変動に具体的な対策を

地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を抑え、低炭素社会へのシフトに取り組みます。



海の豊かさを守ろう

産業や生活の排水、船舶の油の流出や廃棄物投棄を抑えて海の環境を守り、水産物の乱獲も防ぎます。



陸の豊かさも守ろう

森林破壊や砂漠化を防ぎ、動植物の生態系を保全して、生物多様性や天然資源の保護をめざします。



平和と公正をすべての人に

平和で公正な社会の実現のために、 すべての人を守れる法律や政治の仕組みを整えます。



パートナーシップで目標を達成しよう

世界中のあらゆる国や企業や団体・個人が連携して、価値観を共有して、持続可能な社会の実現を果たします。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

■まずは関心をもつことから始めましょう

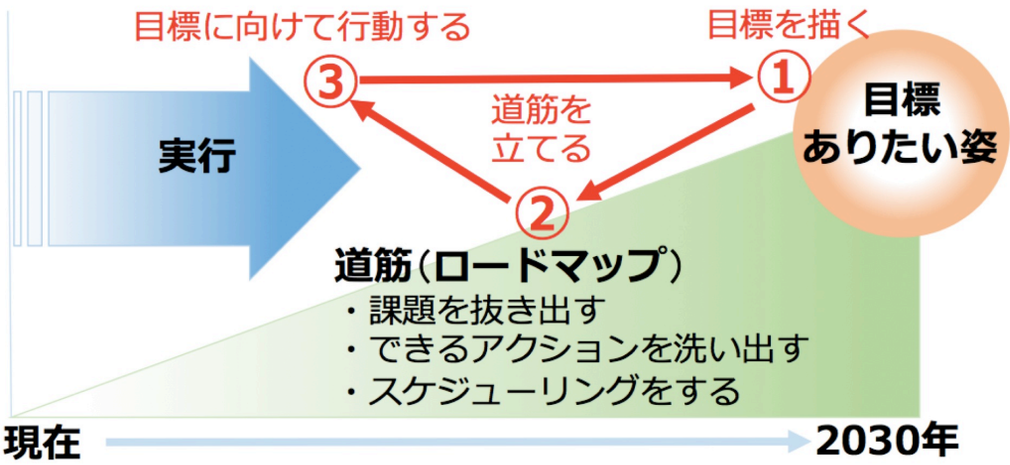
左頁に掲げられたSDGsの17の目標をみて、ご自身が興味を持たれたテーマや賛同できると思われたテーマ、さらには取り組んでみたいなと感じたテーマはありましたか？

たとえば、日々の生活の中での消費行動で思い当たることとして、電気や水道の節約や食事に使う材料の地産地消、家電製品や移動手段でのエコ製品の買い替えなど。また最近、ニュースで見聞きするプラスチック製品の海洋投棄で取り上げられている廃プラスチックの問題や、コロナ禍での生活補償や医療体制の問題など。

一見すると、SDGsの17の目標は、私たちの生活実感から程遠いような印象を受けますが、実はその一つひとつは深く生活に関わっていることが理解できるはずです。従って、私たちにまず必要なことは、SDGsに興味や関心をもって、自分たちの生活に照らしてみる中で、具体的な活動を進めることなのです。

■バックキャスティングで考えましょう

SDGsは、2030年までに達成する目標を掲げています。従って、私たちがSDGsを考えるにあたっては、未来から逆算してそこに至る道筋（ロードマップ）を立てるバックキャスティングの思考法が最適です。



■自分にできることを確実に行動しましょう

とはいえSDGsの活動は、無理を強いてまでやることではありません。背伸びして行動することも控えましょう。SDGsの基本原則は、誰もがその人自身の力量や資質に合わせて実行することであり、“自分にできることを考え行動すること”だからです。

目標は目標として、それを達成するための行動計画は、あくまでご自身のペースで組み立て確実に実行することを優先しましょう。無理な計画を立てて途中で挫折することより、日々の生活でコツコツ実行し、同じ志の人びとと繋がり、学び、成果を確認し、高め合うことが、とても大切なように思います。

一人の力では気候や海洋変化や紛争や不況などの問題を解決することはできませんが、世界中の人びとがSDGsに関心をもち、それぞれの日常生活の範囲内で消費活動や行動様式を改めていけば、その力は地球全体に大きな影響をもたらします。皆さん、頑張りましょう。

SDGsのアクションプラン

- **関心をもつ** 17の目標を読解
- **知る** それぞれのターゲットを読解
- **調べる** さらに情報を収集
- **学ぶ** 学習会や講演に参加
- **繋がる** 運動組織と連絡
- **目標を設定する** めざすべき姿を描く
- **道筋をつくる** ロードマップを作成
- **行動する** 計画に従い実行
- **確認する** 成果を分析・検証
- **発表する** 情報を発信
- **共有する** 情報や価値観を共有
- **SDGsの目標を達成**

誰も置き去りにしないために

今、気になってること
関心をもっていること

新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着かない中、ボランティア・市民活動のみならず、社会生活においても多大な影響が出ています。もともと社会基盤が脆弱な方々にはかなり深刻な状況も見受けられます。

そこで、SDGsいたばしネットワークが目指す「誰も置き去りにしない・されない社会」のために、行政・福祉関係者・教育関係者・町会・自治会関係者・企業など、日頃から社会資源として活動しているみなさまに「今、気になっていること・関心のあること」を伺いました。（写真の掲載はお名前の50音順）



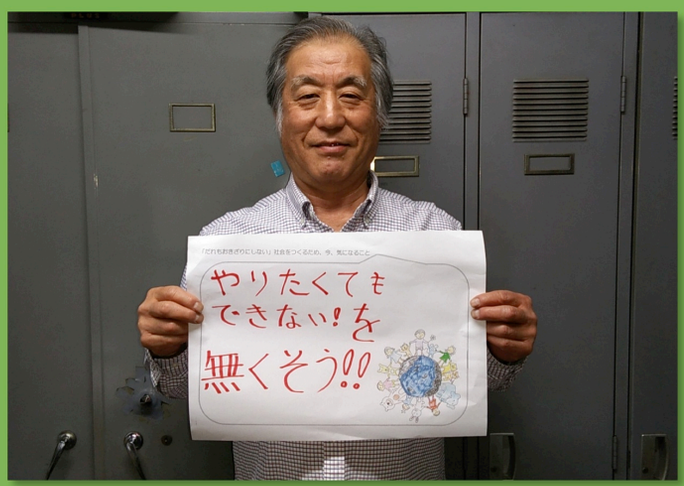
相田義正さん（板橋区社会福祉協議会会長）



秋庭英夫さん（仲宿東町会防災防火部長）

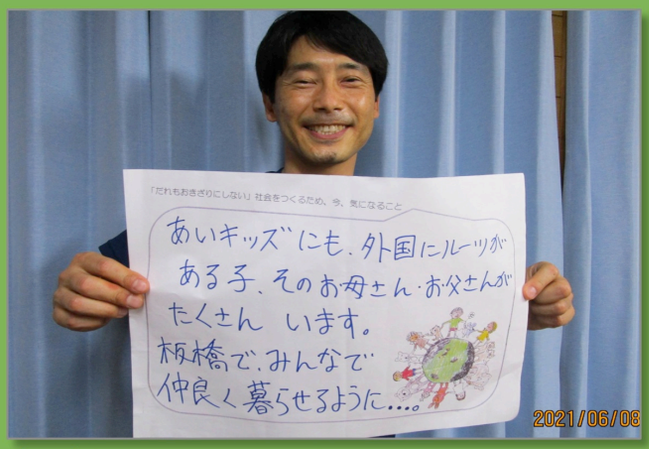


朝倉さくらさん（いたばしアレルギーの会）

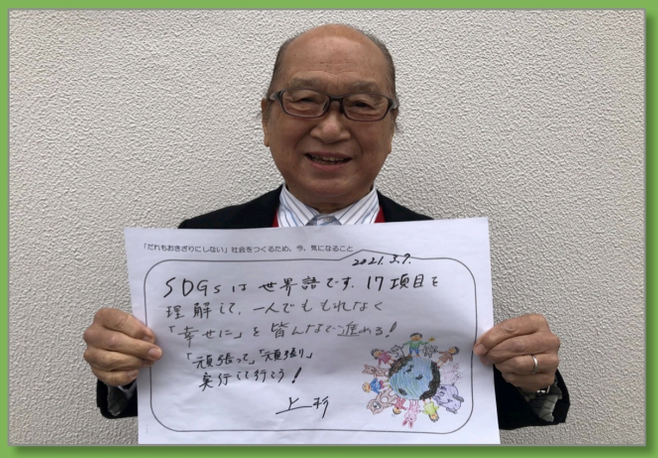


浅見宗弘さん（NPO法人志村スポーツクラブ・プリムラ理事長）

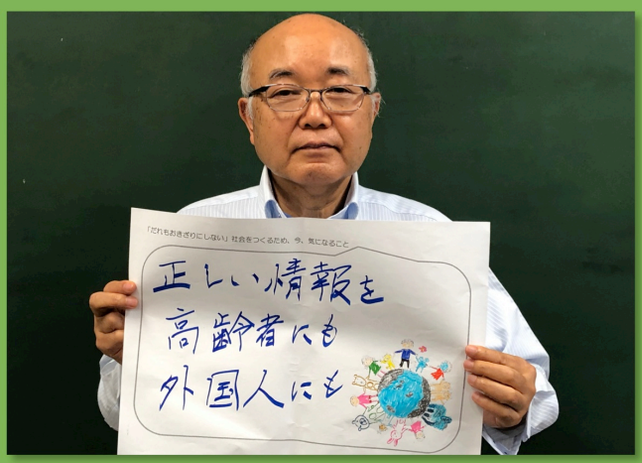
いろいろな人たちがいろいろなテーマを掲げ



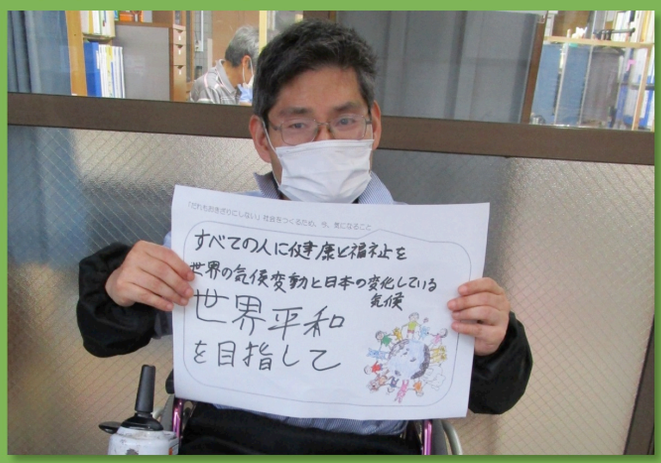
池田優さん（ワーカーズコープ）



上杉博史さん（向原団地自治会会長）



内田和正さん（地球の仲間代表）



海川浩司さん（ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし）



小倉和子さん（生活協同組合 コープみらい）



折原暁美さん（子ども食堂あったかごはんの会代表）



勝沼深さん（板橋区とともに生きる福祉連絡会 理事長）



河崎美知夫さん（板橋盲ろう者の会会長）

多彩な活動に取り組んでいる……



小泉尊聖さん（ひろがれ！ピース・ミュージアムいたばし共同代表）



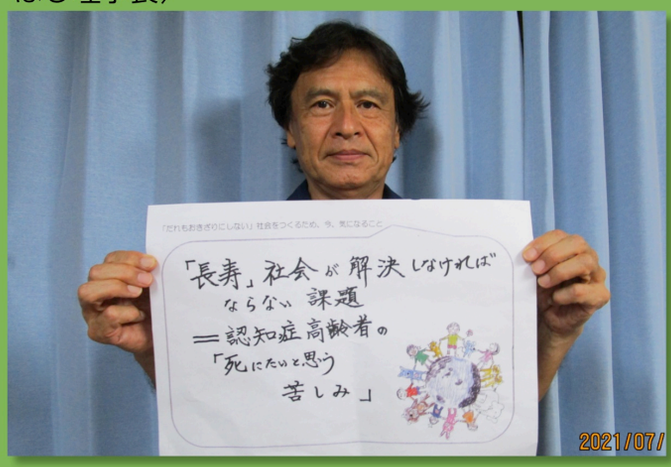
斎藤英治さん（板橋区医師会会長）



三枝節夫さん（みんなのたすけあいセンターいたばし理事長）



坂本あずまおさん（板橋区議会議長）



塩野敬祐さん（淑徳大学短期大学部名誉教授）



島村恵子さん（板橋区立小学校PTA連合会OB会会長）

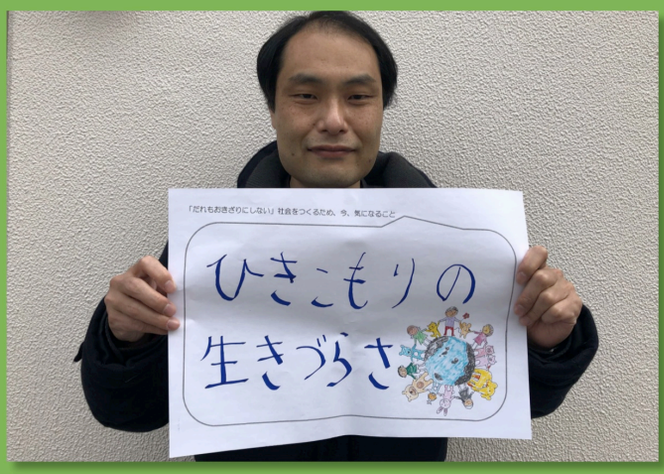


高島安藝子さん（たつのこ保育園）



土居弓子さん（すももケアサービス代表）

まずは課題を知ることからスタート！



冨安義樹さん（生きずらわ～ほりプロジェクト代表）



中川修一さん（板橋区教育長）



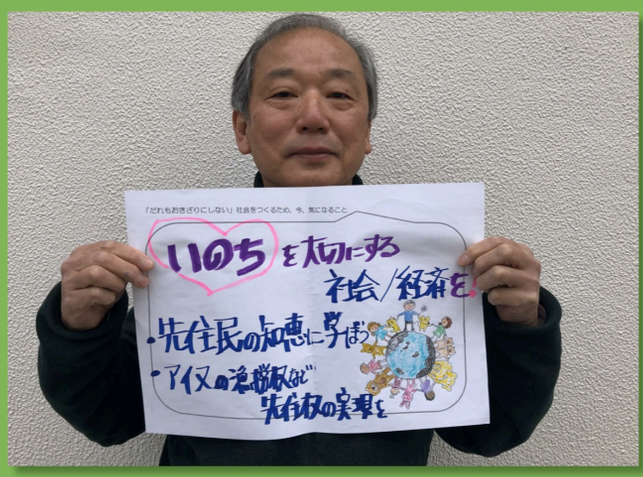
原田華代さん（NPO法人レイ）



藤崎理仁さん（小学2年生）



もともとこさん（子育て応援バンド・音ごはん）



森良さん（エコ・コミュニケーションセンター代表）



山下千佳さん・千代崎一夫さん（住まいとまちづくりコープ）



渡辺千鶴さん（いたばしの空を守る会）

板橋で集めたアンケート結果

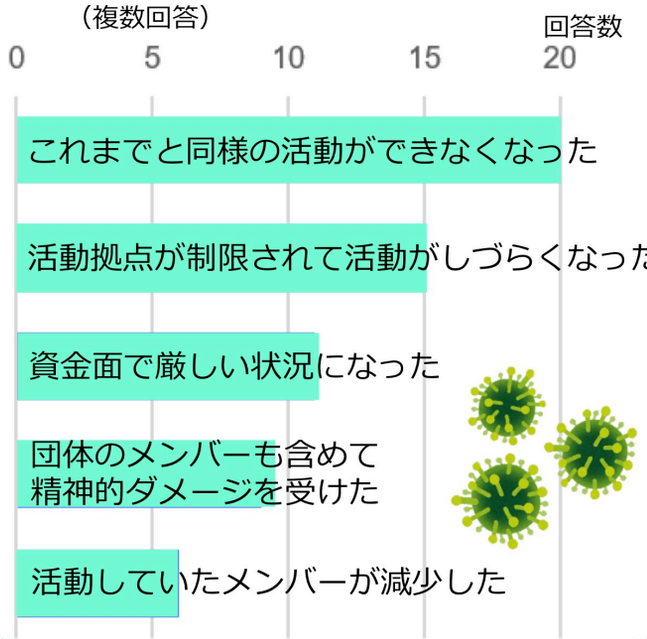
グラフが語る コロナ禍の 板橋の課題

2020年9月～10月にSDGsいたばしネットワークの団体・個人会員にむけて、アンケートを実施しました。アンケート結果から、各団体が最も重要と考えるSDGs課題や、コロナ禍での課題をご紹介します。

団体編
（回答数＝23団体）

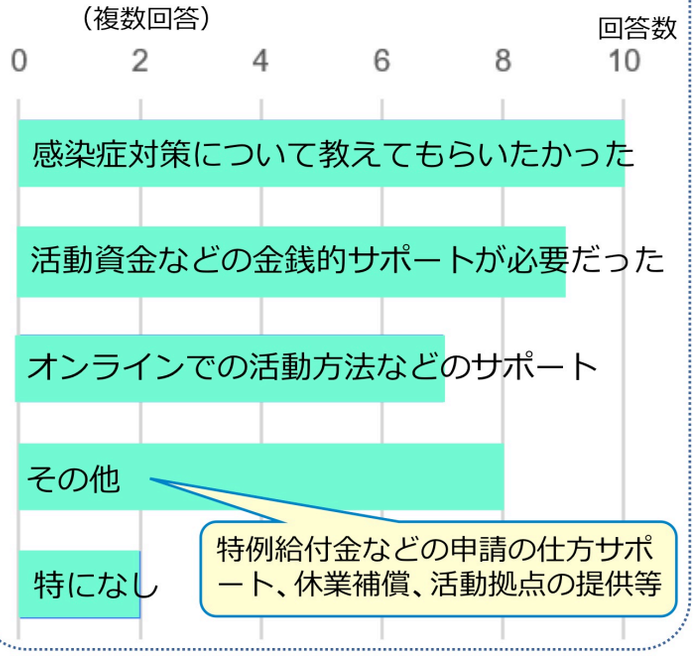
Q：新型コロナウイルスの感染拡大による自粛等で、困ったことはありましたか？

（複数回答）

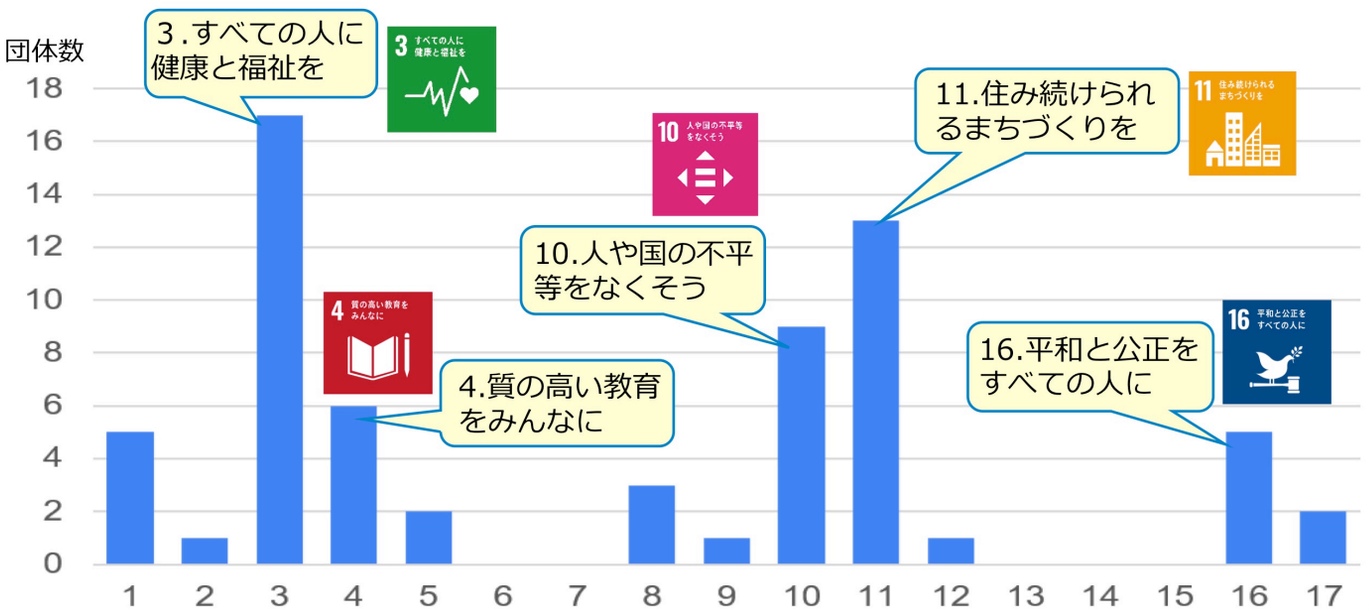


Q：新型コロナウイルス対策の際に、どのようなサポートがあればよかったですか？

（複数回答）



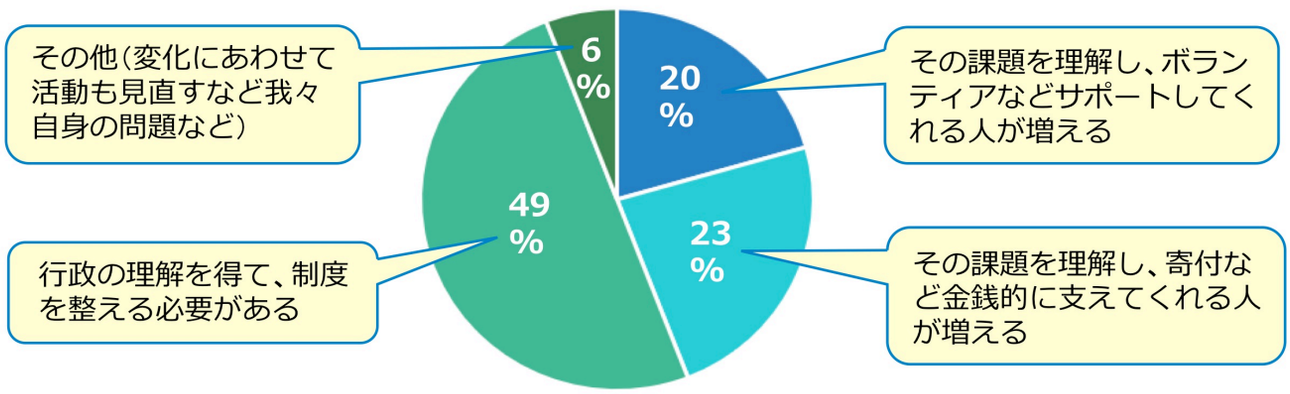
Q：貴団体として今、最も解決しなければならないと思う課題を3つ選ぶとしたらどれですか？



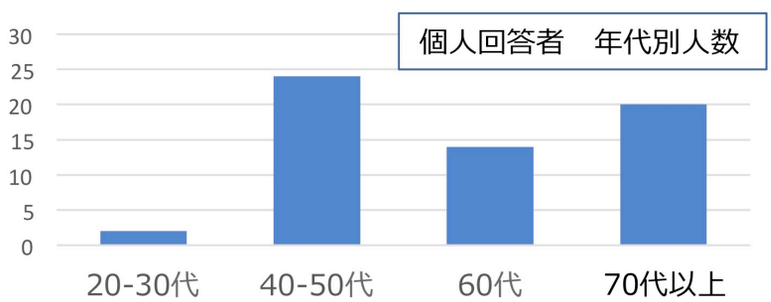
Q：コロナ禍の中、団体活動で工夫したことがあれば教えてください

- 検温、手指消毒、活動場所の消毒等、会議場所を広い会場へ変更（３密対策）
- 換気、消毒、パーテーションの使用開所時間の短縮、プログラムの中止
- 事業活動等で先行きや経済面で不安のある先へのボランティア的支援
- フィジカルディスタンスとマスク着用
- ZOOMによるオンライン会議やイベントに参加した
- 児童養護施設へのマスク支援

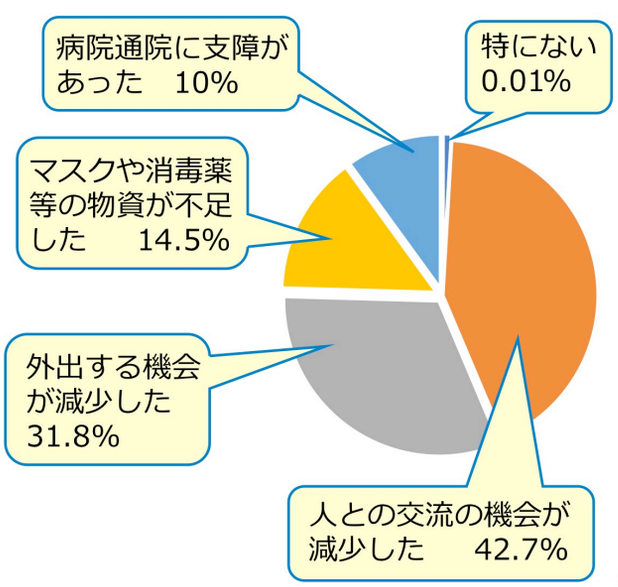
Q：課題の解決に当たって、どのようなサポートが必要ですか？



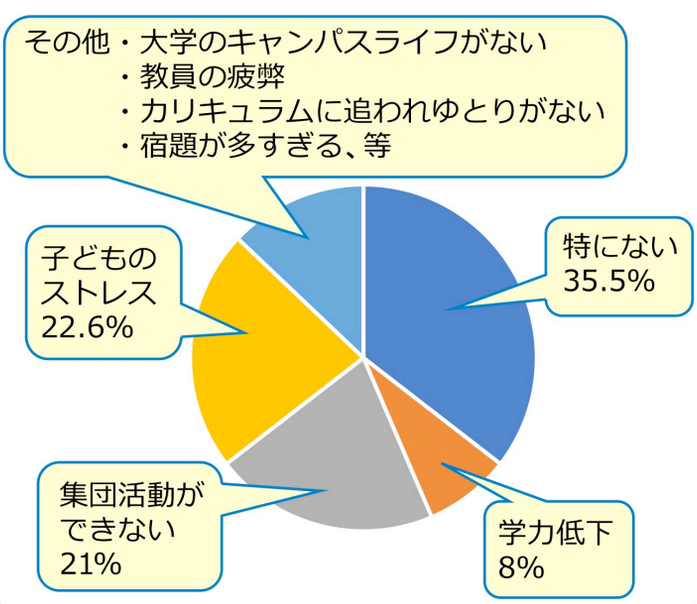
個人編
（回答数＝60名）



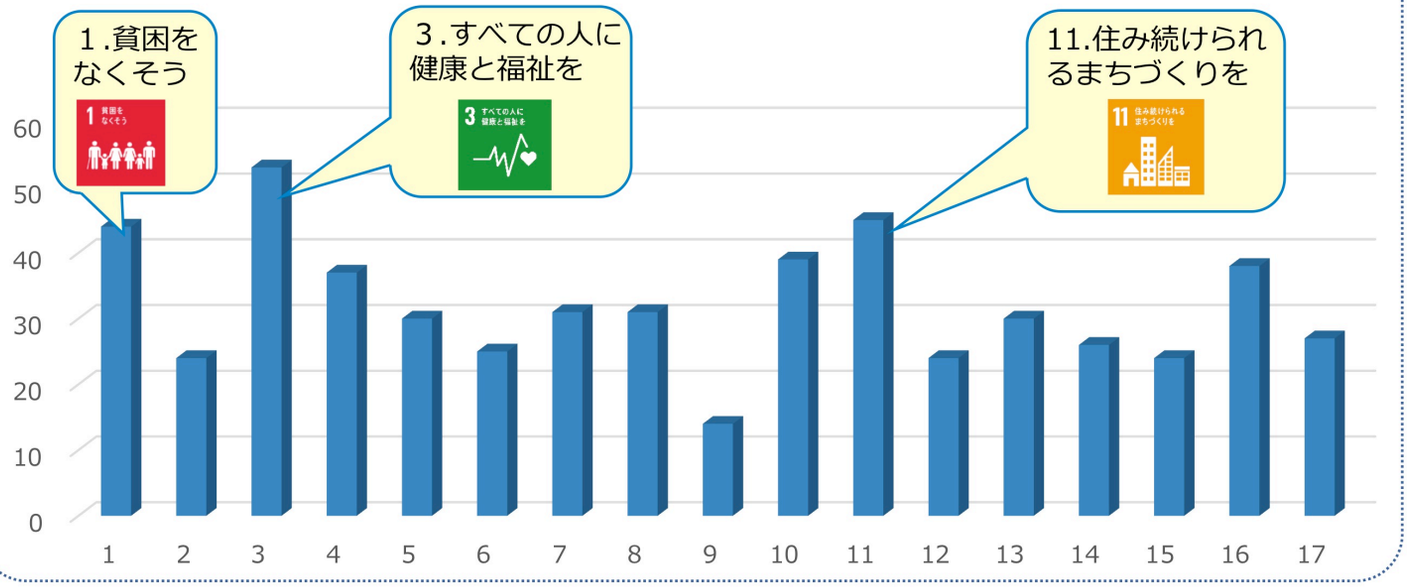
Q：コロナ禍に当たって、日常生活で困ったこと



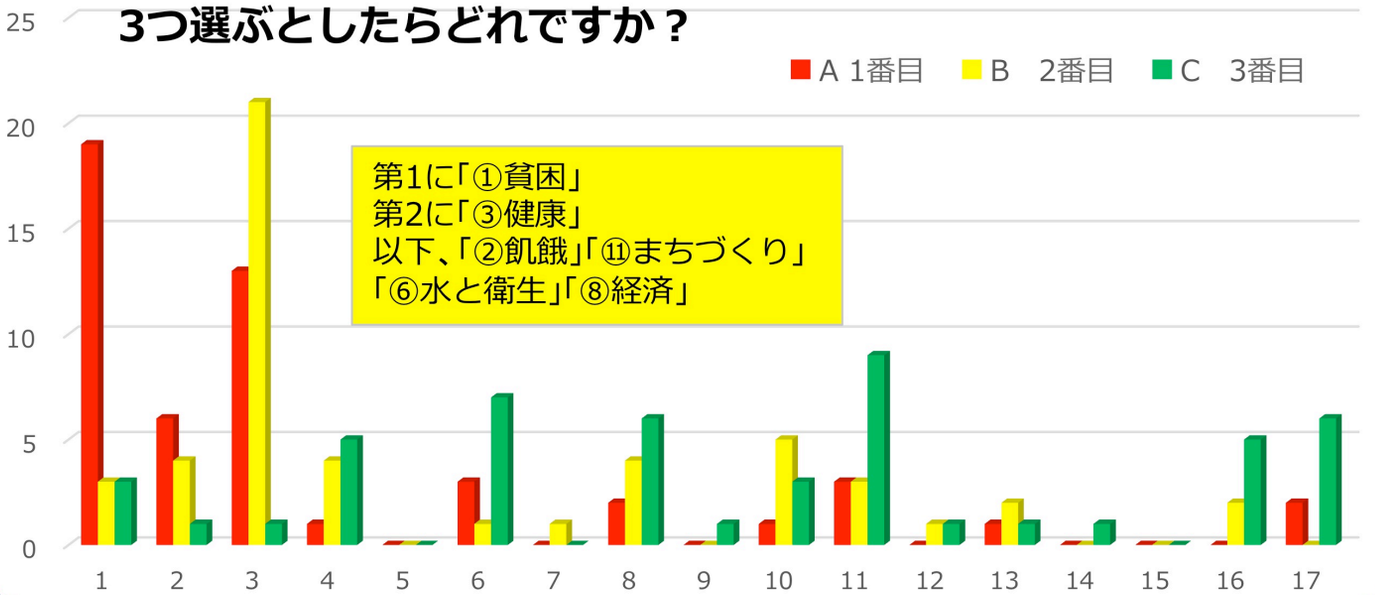
Q：コロナ禍に当たって、学校について困ったこと



Q：SDGs17の目標のどれに関心がありますか？



Q：あなたが今、最も解決しなければならないと思う課題を3つ選ぶとしたらどれですか？



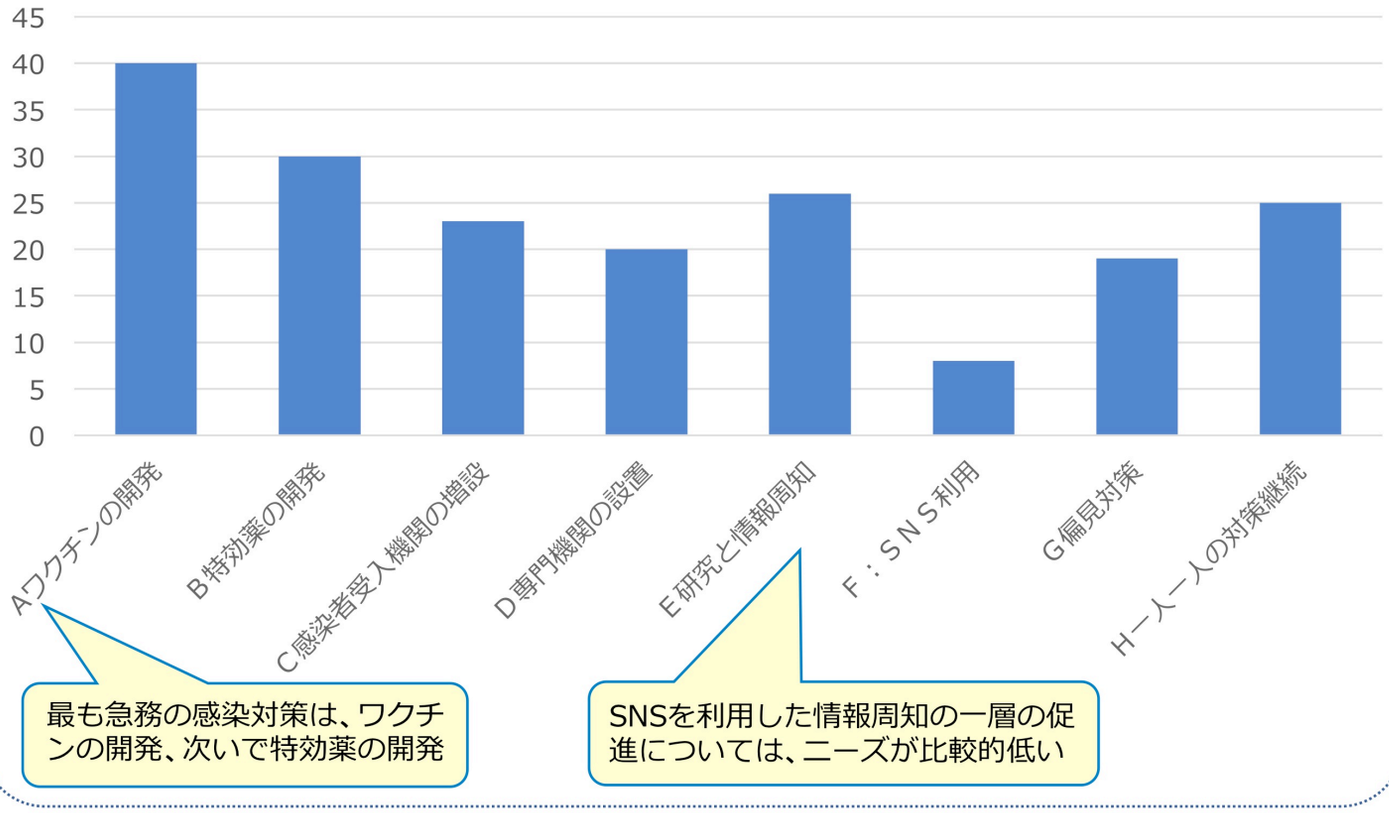
Q：コロナ禍において、プラスに働いている点

- 自ら健康を守る習慣で、風邪をひかなくなった
- 免疫力、栄養など、食と健康について意欲的に考えるようになった
- テイクアウト等により、自宅で楽しく過ごせる時間が増えた
- 家族との会話、一緒に食卓を囲む機会が増えた
- 取り寄せ商品でちょっとした贅沢を楽しむ気持ちを大事にした。
- ゆったりした時間のなかで、家の片付をしたり、マスクづくりを楽しんだりした

Q：コロナ禍において、困っていること

- 避難所等の防災運営や今後の行政経営
- 人間が人間らしく触れ合えなくなり、そのことを学べず育つ人間が増えていくこと
- 今年度は様ざまな助成金や支援金で乗り越えられても、来年度以降が心配
- 不安感で世の中がギスギスしている。他人への攻撃、差別意識で生きづらいと感じる。子どもの心への影響が心配

Q：コロナウイルス感染症に対して急務のこと



グラフから読み取れること

- ●団体からの回答で、解決しなければならない課題は[３：健康][11：まちづくり]です
- ●個人からの回答で、関心ある課題は[１：貧困][３：健康]です
- ●コロナ禍において、団体からの回答ではこれまでの活動がしづらいことを課題と考え、個人の回答では人とのかかわりがしづらいことを課題と考えています
- ●リモート、オンラインの普及や家庭生活の充実等、プラスに働くアイデアも出されています

考　察

- ●「コロナ感染症に対して急務のこと」の問いへの回答者が、国や専門機関への感染対策に大きな期待を寄せながら、様ざまな工夫をして生活を維持していることがわかります
- ●特に、ワクチン開発や特効薬の開発等、行政機関においてすべきことへの期待が現れています
- ●その中で、「Ｅ公衆衛生分野での研究と必要な情報の提示」の項目において「情報周知」の部分では市民レベルで高めていく必要があります。SDGsいたばしネットワークがその役割を担う可能性が十分にあると考えます
- ●今後もSDGsが、個々の困り感や要望等の「声」をより広く収集し、正しく有益な情報を配信することで「豊かな共生社会の実現」に寄与することを目指してまいります

コロナ禍の今、考えたいこと

～新型コロナウイルス感染症対策とSDGs～

2020年初頭より、全世界を危機に陥れた新型コロナウイルス感染は、経済活動を停滞させ、人びとの暮らしを脅かしています。医療崩壊の恐れ、失業や減収等の労働問題、学力低下の問題等々、山積する課題はどれも、SDGs17の目標につながっています。



コロナ禍で経済活動が停滞し、休業・失業や廃業が相次いでいます。
世界では2020年、新たに7100万人が、極度の貧困に追いやられているという報告があります。



コロナ禍で、極度の食糧不足や流通の停滞が起こり、世界各地で飢餓状態が深刻になっています。紛争や気候変動による食糧危機の連鎖に拍車をかけています。
2020年、ノーベル平和賞が贈られたWFP世界食糧計画は貧困国に対する長年の食糧援助や開発支援の活動が評価されたものです。全世界を通じて官民一体となった支援の取組が重要です。我が国もその中心的役割を担っています





新型コロナ感染は収まりを見せず、2021年８月時点で国内感染者は累計100万人を超えました。医療現場も逼迫し、コロナ以外の患者が適切な治療を受けられない問題があります。
世界的には5歳未満のコロナウイルス感染による死者が数十万人を超える可能性もあります。



2020年度は全国の学校が3~4か月の休校となり、子どもの学力低下、心的ストレスの増加が心配されました。
リモートによる授業の実践も始まり、ICT環境の充実が急務となっています。
世界的には、2030年のSDGsゴール時点で2億人以上の子供たちが学校に通えないという試算が出ています。



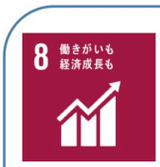
男女共同参画社会は進んでいるものの、我が国の非正規社員の割合は男性がおよそ23%であるのに対し、女性はおよそ56%となっています。
コロナ禍において非正規社員の雇用が打ち切りとなるなど、男女の格差が生じています。



世界的にはおよそ30億人が自宅が手洗いをする設備がなく、コロナ禍において、感染症の予防に欠かせない水道水を確保できない国や地域が多いのです。
消毒用アルコールが一時期品薄になったことがありました。安全な水の確保とトイレの整備は感染症予防と衛生的な環境づくりには必須の取組です。



エネルギー消費量全体における再生可能エネルギーの割合は、2017年時点で17%となっています。
一方、開発途上国では医療現場の4か所に1か所の割合で電気が通じていない国もあり、コロナ禍において感染防止や治療の現場となる医療施設に支障をきたしています。



全世界のほとんどの国で経済活動が停滞し、20世紀初頭の世界大恐慌以来、最悪の景気後退に直面しています。
2020年第2四半期で4億人相当の仕事が失われたと言われています。
一方で在宅リモートワーク等、働き方にも新しい生活様式による変化が見られ、ライフ＆ワークバランスの分岐点を迎えています。



技術革新や産業の転換が急務となっています。さらなる研究開発投資が求められますが、開発途上国では資金援助を受けられる企業等は35%にとどまりインターネットを利用できるのは20%未満とも言われています。



世界的な景気後退で、開発途上国への開発援助金は、2017年に4200億ドル→2018年2710億ドルとなり、さらに大幅に減ることが危惧されています。国内においても中小事業所や女性・高齢者・子ども・障害者等、立場の弱い人々がコロナ禍の打撃を受けています。



新型コロナ感染者の90%以上は東京をはじめとする都市部に集中しています。自粛生活で、改めて家族や地域の絆がクローズアップされました。一方で、在宅ワークや飲食物の宅配といった新たな生活様式が確立し始めています。在宅を基盤とした身近な地域の発展を人的・物的環境から推進する必要があります。



一時期消毒液やマスクが品薄になりました。消費者の集中や過剰なデマが不安をあおり、消費バランスに混乱をもたらしました。
世界では依然として持続不可能な形で天然資源を利用しています。電気・電子機器の廃棄量は直近10年で38%増加しています。リサイクル率は20%未満です。人々が冷静な判断で、持続可能な生産と消費のパターンを確保する心がけが求められています。



コロナ禍による経済の停滞は、温室効果ガスの排出削減をもたらしました。2020年の温室効果ガス(GHG)排出量は6%減少する見込みです。しかしこれでも、目標の年間7.6%削減には至っていません。今後の新しい生活様式の中で、引き続き取り組む必要があります。一方で気候変動は悪化し、干ばつからの山火事被害や集中豪雨等による洪水被害は深刻です。



経済活動の停滞で、水産資源の消費が落ち込みました。漁獲量の3割減というアンケートデータもあります。このことは水産資源の乱獲に歯止めをかけ、海洋の生態を回復させるチャンスでもあります。この時期に地球全体の将来を見越した今後の消費・生産の在り方を見直すことが大切です。



そもそも新型の感染症の流行は、地球規模の生態系の乱れによって、野生生物に蔓延していたウイルスが人間社会に入り込んだことが遠因としてあります。コロナウイルスの終息を願い、対策を講じるとともに、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処等、生物多様性損失阻止の取り組みも進めなければなりません。



世界的なパンデミックの危機の状況下でも、国家間の衝突や紛争等、争いが絶えません。多くの難民がコロナウイルス感染症の犠牲になっています。新薬やワクチンの開発が先進国で競い合って進められています。世界各国が協働し連帯感をもって、コロナ等の感染症を克服することが大切です。



各国政府開発援助(ODA)はアフリカ諸国に対する援助を中心に、2019年まで増加傾向でした。2020年には大幅に減少する見込みです。目標の一つであるインターネット等ICTの普及について、先進国と開発途上国とでおよそ3倍の差があります。コロナ禍で遅滞している国際協調を進めたいものです。

資料出典：国際連合広報センター
「持続可能な開発目標(SDGs)報告2020」

コロナ禍の克服は、SDGsの目標達成と直結連動しています

私たちは負けない･私たちは立ち上がる

私たちは、誰一人取り残さない

緊急事態宣言下での自粛や制限等、人びとの生活が一変した2020年。そして、「新しい生活様式」により、今後もなお人びとの良識ある行動が求められています。新しい生活様式を定着させながら、この状況を人生のプラスに転化させてみましょう。

世界を身近に感じよう

地球規模での感染に拡大した新型コロナウイルス。世界各国の感染状況や対策、特に、発展途上国の情報を注意深く受け止めて、この危機を乗り越えるためにできることは何か、考えるきっかけにしていきましょう。



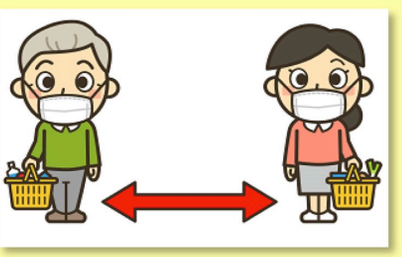
自らの健康に留意する習慣を継続しよう

毎日の検温、マスク着用、手洗い消毒の励行といった対コロナの生活習慣は、自らの健康の保持増進を高めています。インフルエンザの流行防止対策にもなっています。こうした自衛対策があたりまえの行動様式として定着･伝承していきましょう。



人とのソーシャルディスタンスをとろう

人から人へのウイルスの飛沫感染を防ぐ適度な物理的距離と、人に不安や不快を感じさせない心理的距離（例えば人前で咳やくしゃみをして注目される、等）を保つことなど、社会生活上のモラルや人とのかかわり方について、改めて考えましょう。



リモートワークでゆとりある生活を充実させよう

在宅勤務が主となって、家庭や地域を生活基盤とする労働形態が広がりつつあります。働き方改革にも拍車がかかります。人びとがご自身のライフ&ワークバランスを充実させて豊かな生活を目指しましょう。



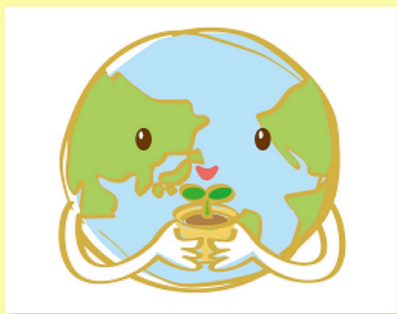
賢い消費生活を推進しよう

「買い物は数日に1回、家族でいかずに少人数で」という働きかけがあり、計画的な買い物が注目されました。一方で、マスクや消毒薬等が品薄になり、デマに踊らされることもありました。消費者が個々に正しい理解と判断で、先見性のある消費生活を進めていきましょう。



フードロスについて考えよう

経済活動の停滞により流通が滞り、食料品が余るいわゆるフードロスの問題が生じ、国や地域による格差を生みました。一方で、アプリによる宅配サービスの普及は、商品の需要と供給の調整を可能にし、売れ残り商品の削減になると期待できます。世界的な食糧危機につなげるために、賢い生産と消費に心掛けましょう。



災害への備えを家族や地域で共有しよう

干ばつや洪水を引き起こす異常気象も地球規模で深刻です。
我が国も毎年のように「数十年来」という豪雨に見舞われ、激甚災害が発生しています。もとより大地震への備えが急務です。
家族や近隣の方も交えて、日常の防災について考えるきっかけとしましょう。

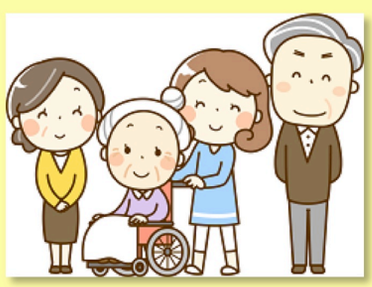


＜非常事態に備えて＞

○避難所や近所の高い建物（水害対策）の場所、避難所までの道順を確認しておきましょう
○在宅避難に備えましょう（水/数日分の食糧/常備薬/マスク/体温計/消毒液/充電器,等）
○ハザードマップ、連絡先（親族/友人/地域/その他ネットワーク）の確認をしておきましょう

自分の人生の設計図をたてよう

「いつ、何が起こるかわからない」時代、SNSも万全ではありません。自らの危機管理を整えることは、やがて訪れる「終活」の準備にもなります。この時代だからこそ、これまでの歩みと今後の展望を含め自分や家族の在り方を見直すきっかけとしましょう。



今、私たちが取り組んでいること

板橋SDGs活動の紹介

■地域ブロックの活動……地域から課題解決

桜川・大谷口・仲町ブロック

困ったこと

交通不便から、誰一人取り残さない

・地域の交通便が悪く、役所や病院に行きづらい
・コミュニティバスの設置には、条件整備が整わず、実施が難しい

自分たちでやってみよう仲間を広げよう

●地元住民のボランティアによる互助輸送をやってみよう
→自動車の提供・運転手の募集・無料送迎サービスの実施・運行開始へ

＜結果＞

現在、1台の乗用車で毎日1回運行。予約制。1組3名まで、区内随所への送迎

高島平・舟渡・蓮根ブロック

困ったこと

災害に備えて、誰一人取り残さない

・令和元年東日本台風(台風19号)の避難所対応～浸水地域内に避難所を設置？
・水害発生の時の避難マニュアルがない。

自分たちで調べてみよう仲間と学び合おう

・現在の防災計画では水害に対応できない
・地域には坂道が多く、避難行動要支援者の高台への避難が困難
・区危機管理室に働きかけ、公助・共助の力を得て、自助を充実させよう

6地区ブロックでの取り組みをしています

・定例会を開催しています（月1度の目安・次頁参照）
・今後は情報紙の発行・発信や、関係機関との連携を進めていきます

★プロジェクト（課題解決）型の取り組み

・地域で困っていることを取り上げて、「誰も置き去りにしない」地域づくりを考えています
（例）桜川・大谷口・仲町地区「互助輸送システム」/高島平・舟渡・新河岸地区「水害防災対策」

★「まちの学び場」（学習普及）型の取り組み

・開かれた交流を進め、学びの場を提供しています
（例）共生社会・地域防災・フードロス・地球温暖化（テレビ番組、映画等の上映による学習会）

地域ブロック別学習会の取り組み

中台・常盤台・富士見ブロック

町会等を母体とする自主防災組織や学校防災の在り方について、学んでいます。町の防災活動がコロナ禍の今、休止していますので、今後の継続課題です。

そこで、関心のある話題について広く学んでいます。特にフードロスを手掛かりに食糧問題・環境問題について学びます。（下島）

＜定例会＞毎月第3水曜日19時
おもに常盤台地域センターにて



桜川・大谷口・仲町ブロック

平和学習、食品ロス等について学び、地域に「SDGs」を広める活動を行ってきました。

その中で、交通が不便だという地域の課題解消に向けて、「ボランティア互助輸送」を発足させようと準備や人材確保を進めています。実際に運営につなげるための実証実験が始まりました。（林）

＜定例会＞毎月第1土曜日14時
コーシャハイム向原コミュニティサロンにて



板橋・仲宿・熊野ブロック

おもに災害対策について学んでいます。「防災町歩き」を行い、地域の防災対策について、体験を通して学んでいます。実施中に、町の方々から声をかけていただくなど、反響も得ています。

今後も定期的に継続し、特に避難行動要支援者に対してどのような対策を立てたらよいか、学んでいきます。（勝沼）

＜定例会＞毎月第4木曜日19時
デイサービスおむすびにて



志村・清水・前野ブロック

「おたがいさま」という地域の学びの場の蓄積を生かし、地域の支え合いの仕組みである「助け合いセンター清水」の構築を進めています。

「ささえあい会議清水」との協働を進めるとともに、映画やDVDの鑑賞学習等を通して、「共生社会の実現」に向けた学習も進めていきます。（土居）

＜定例会＞毎月第3木曜日18：30
清水児童館　他にて



成増・赤塚・徳丸ブロック

活動拠点である、まなぽーと成増とも連携し、地域の課題を探っています。防災対策について、ハザードマップをもとに、「町の防災散歩」を実施し、地域の方との交流を広げながら防災について学んでいます。

地域にある高齢者施設とも関わりをつなげて連携について探っていきます。（三枝）

＜定例会＞毎月第2木曜日19時
まなぽーと成増にて



高島平・舟渡・蓮根ブロック

水害を想定した避難所開設の在り方についての検討を重ねています。板橋区危機管理室の協力により、説明会や学習会、防災避難訓練を実施しました。

特に、新河岸地域は、2つの川に挟まれて避難行動が非常に困難な実情です。この地域に特化したプロジェクトを形成し、継続して学習・検討を進めます。（廣瀬）

＜定例会＞毎月第1火曜日18時30分
高島平団地集会所にて



・関心のある方はSDGsいたばしネットワークにご連絡ください。学習会のご案内をいたします。
・近隣の地域に限らず、どちらのブロックにもご参加いただけます。

■各種プロジェクト……テーマごとに課題解決

★保健・福祉・医療プロジェクト

私たちは、「SDGsいたばし宣言」をもとに、「誰も置き去りにしない・されない社会の実現」を目指します。そのために、置き去りにされている課題を探り当て、その解決を図るとともに、「誰も置き去りにされない」共生社会の実現を目標としています。

新たな福祉「地域共生社会」の実現に向けた『包括支援・重層的支援体制整備事業』の豊かな具体化を図るための活動を始める。
①保健・福祉・医療関係団体へのアンケート調査
②板橋区への提案・要望書提出

新たな福祉『包括支援・共生地域づくり』を進めるために～区への要望書

- **○包括的支援事業の実施**　～どの相談も断らない「多機関協働事業」による対応
- **○地域参加支援の促進**　～要支援者も自ら地域の活性化に貢献できる参加方法の追求
- **○地域づくりの支援**　～継続的に誰もがかかわる共生型支援体制の整備
- **○地域センターを核とした地域づくり**　～支援関係機関のプラットホームとなる存在
- **○コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配備**　～伴走型個別支援の人材
- **○「なんでも相談窓口」の設置**　～各地域センターに「断らない相談窓口」の設置
- **○「福祉協力員（訪問員）」の組織化**　～生活課題を抱えた住民の見守り
- **○「共生型」の居場所づくり**　～地域住民が交流し情報を共有し合う拠点づくり
- **○ボランティアビューローの設置**　～地域ボランティアのコーディネートを行う機関設置

★表現活動プロジェクト

私たち表現活動プロジェクトでは、人びとの心に届く音楽や演劇やコミュニケーションツールなどの創作活動を通して、人びとの心と心を繋ぎ、理解し合い、尊敬し合い、共に助け合うとともに、「誰も置き去りにされない」共生社会の実現を目標としています。

■オリジナルソング「いたばしからSDGs」の作成
⇒子育て応援バンド・音ごはん

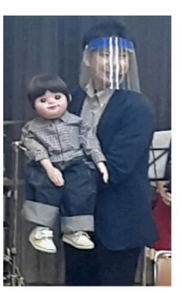




オリジナルソング
「いたばしからSDGs」

■演劇によるSDGsの普及
⇒劇団銅羅：人形劇・腹話術





■SDGsいろはカルタ
⇒原田華代さん





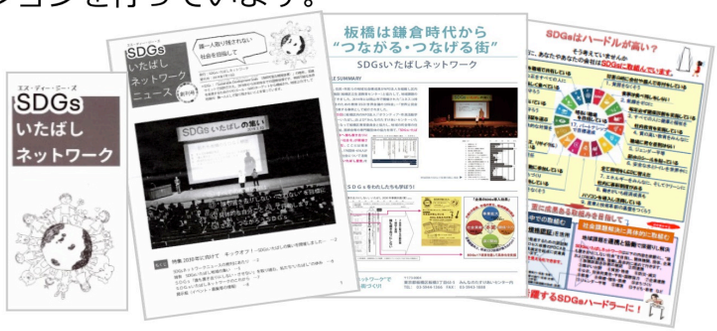
DVDのデジタル絵本第1弾▶

★広報委員会

広報委員会は、SDGsいたばしネットワークの活動を広く人びとにお伝えする中で、同じ志を抱く人びとの絆を強め、スキルを高め合い、新たな出会いをめざして、様ざまなコミュニケーションツールを作成しています。さらに、多くの人びとのニーズも受け止め各分野の活動に反映していくために、アンケートや展示活動を通したコミュニケーションを行っています。

<主な活動>

・「SDGsいたばしネットワークニュース」の発行
・パンフレット、冊子の発行
・ホームページ（2021年中に開設予定、準備中）
・ブログ、SNSで“今を発信”（今後の予定）
・板橋区産業見本市で企業とのコンタクト推進



■未来をともにつくる仲間

★いたばし子ども若者支援ネットワーク会議

いたばし子ども若者支援ネットワーク会議は、板橋区内の団体・個人が横につながるネットワーク型市民団体です。2021年８月現在、約50の団体・個人がつながっています。

主な活動は、子ども・若者の健やかな成長にむけたさまざまな体験・学習活動や、彼らが生きている中でぶつかる壁や、現代社会の構造がもたらす困難さや生きづらさ（貧困、ひきこもり、不登校など）などの課題にたずさわる人々が一堂に会する機会を設けています。

多様な背景を持つ関係者が集まることで、課題を共有し、子ども・若者支援の基盤強化につながるネットワークの構築を目的として、以下のような場を目指しています。

①区内の各支援団体が互いに理解しあって手を携えていける場
②まだ見ぬ団体・個人ともつながれる場
③制度からこぼれおちる、制度では解決できない意見を丁寧に拾っていく場
④子ども・若者の視点、大人（保護者・支援者・地域）の視点、制度の視点・・・
多角的な視点から課題を考える場
⑤支援者同士の力量を高めあう場
⑥子ども・若者と他世代にも通底する問題、包括的なケアの視点を大切にする場

通信バックナンバー一覧はこちら

何よりも、子ども・若者たちが生き生きと自らの力を発揮できるための十分な文化的・自然的・社会的な資源を残していく「持続可能な社会」を大切に、開かれた場であり続けたいと願っています。

<該当する主なSDGs17の目標>



団体連絡メールアドレス：
itabashi.kodowakanet@gmail.com






素晴らしき板橋のSDGs仲間たち

国連が定めたSDGsというと、とても大きな話で、なかなか身近に感じられない人もいるかもしれません。でも、SDGsが謳う地球上の「誰一人取り残さない」という考えには共感するのではないでしょうか。こうしたSDGsが言われる前から、地域には目の前の困っている人を支え、地域や社会をより良くしようと活動してきた人びとがいます。

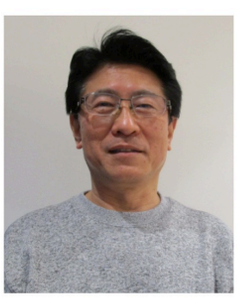
SDGsいたばしネットワークでは、「誰も置き去りにしない、されない」地域を目指していますが、この「素晴らしき板橋のSDGs仲間たち」では、10の分野で活動する人びとや団体を紹介しています。板橋にはもっと多くの様ざまな分野で活動する仲間がいますが、できるだけ多様な視点で紹介したいと、今回は「高齢者」、「貧困・居場所」、「障がい」、「教育」、「若者」、「環境」、「ジェンダー」、「企業」、「文化・芸術」、「平和」をテーマに選びました。活動に共感したり、関心のある団体がいたら、ぜひコンタクトを取ってみてください。身近な地域での活動を知ってもらえると嬉しいです。

高齢者

少子高齢化の時代、高齢者をとりまく環境は大きく変わっています。独居、あるいは老々介護が増え、貧困、孤立状態の方も増えています。住み慣れた地域で住み続けられるための取組みが模索されています。

高島平介護センター





代表 小澤徹さん

高島平介護センター

私たちは居宅介護支援（ケアマネ）、訪問介護（ホームヘルパー）の在宅介護サービスを提供する事業者です。
住み続けてきた「家」や「地域」で暮らし続けていくために、その「人」の日常生活を支えていくことが介護事業者の役割であり、重要な社会貢献だと思います。
サービスを受ける側の立場に立って、様ざまな生活上の困難や矛盾に目を逸らさず、日々の生活実態や課題を利用者の立場から見つめ直し、住み慣れた街で暮らし続ける環境づくりをお手伝いすることが大切です。
その街で共に暮らして生活を共有し、地域や環境を理解し、一人ひとりの生活実態に寄り添って介護サービスを提供することが、私たちの目標です。



介護相談



ケアプラン作成
（居宅介護支援）



訪問介護

高島平介護センター
https://k-f-service.com/

貧困・居場所

日本の貧困は、経済がその国の水準を下回っている状態にある相対的貧困と人間関係などが途絶え、孤立してしまう関係性の貧困が言われています。どちらも当事者が孤立しないことが大切です。

制度からみる貧困対策



生活が困窮した時に、どこに相談したらいいのか分からない人も多いと思います。自治体でも様々な制度が用意されていますが、制度自体を知らない人も多いようです。いざという時に、必要な人に必要な情報が届くように、ぜひ多くの方に知っておいてもらいたいと思います。

生活保護	病気、ケガ、働き手の失業、死亡により生活に困った時に、その世帯の最低生活を保障するもの（担当部署：福祉部 板橋・赤塚・志村各福祉事務所 援護係）
母子及び父子福祉資金	配偶者がなく20歳未満のお子さん等を扶養している方への資金の貸付（担当部署：住所地を担当する福祉事務所）
女性福祉資金	配偶者のいない25歳以上の女性への資金の貸付（但し、25歳未満でも扶養者がいる場合は可）（担当部署：住所地を担当する福祉事務所）
児童扶養手当	一人親家庭（母子家庭・父子家庭）や、両親のどちらかが心身に重度の障がいがある家庭で、18歳までの児童（18歳になった最初の3月まで）を養育している方（担当部署：子ども政策課子どもの手当医療係）
一人親家庭等医療費助成	一人親家庭、父母ともいない家庭、父または母に障がいのある家庭の親と児童を受給者とし、健康保険給付の自己負担分のうち一部負担金を除き助成（担当：子ども政策課子どもの手当医療係）

上記はほんの一例です。
悩んでいる人がいたら、
相談窓口を伝えましょう！

<相談窓口>
＊福祉総合相談→板橋、赤塚、志村の各福祉事務所総合相談係
＊生活困窮者総合相談→いたばし生活仕事サポートセンター
＊納税、保険料等の納付相談→納税課、国保年金課等の担当部署

NPO法人ドリームタウン



私たちは、だれもが自然体で生きられ、夢と希望を抱ける地域社会を目指しています。まちじゅうに、多様な人がごちゃまぜで集う地域交流拠点を増やしていき、さらに孤立しがちな人など支援が必要な人には、生活のサポートを行っていきたいと考えています。子どもから高齢者まで、まち全体がサービス付多世代住宅になることで、暮らしやすいまちづくりを進めていきます。



代表 井上温子さん

①地域リビングの運営
板橋区高島平団地の店舗を借りて、常設の多世代交流拠点を運営しています。お昼は、地域の人たちと食べるおうちごはん。夕方からは、子ども食堂をしています。

②生活・居住支援
ラインでの見守りや生活サポートを企画中です。

③板橋に新たな拠点と住まいをつくる会
向原や宮本町に新たな拠点づくりを進めています。向原は2021年4月にスタートしています。







ドリームタウンHP：
https://dreamtown.info/

障がい

「障がい」といっても様ざまな分野があり、その障がいによる困りごとも多様です。でも、多くの方が周囲の理解とサポートがあれば、住み慣れた地域で安心して暮らしていけます。まずは、お互いを知ることがとても大切です。

板橋区肢体不自由児者父母の会



昭和33年に発足した歴史と伝統のある会です。現在111名の会員が在籍し、定例会・各種行事を通して同じ悩み持つ父母のコミュニケーションを図り、情報の共有、また毎年行政に対して各種の要望・陳情活動を実施しています。





板橋区肢体不自由児者父母の会は、会員の年齢も子どもの年齢も様ざまですが、定例会では皆、笑顔で和気あいあい。話し合いの中で大切な問題に気づき、解決していくために声を上げる。『一人ではできない事でも仲間とならできる』肢体不自由児者がこれからも安心して住み慣れた街で暮らしていけるように、共に考え共有しています。
毎月発行のお便りとは別に、年1回会報誌を発行し、成人を迎えた会員のお祝い会も実施しています。また、スタッフと共に日帰りのバスハイクでは、皆が心から笑えるよう、楽しめるように配慮し、会員もスタッフも楽しみにしている行事です。
私たちの活動が、子どもたちにとってより良い未来へ繋がると信じています。





親の会HP：
http://oyanokai-ita.com/

若年認知症いたばしの会ポンテ



板橋区を中心に『認知症と共に歩む人にとって暮らしやすい地域社会』を会員や地域の方々と一緒につくっていく活動を実践している団体です。



事務局
水野隆史さん

若年認知症いたばしの会ポンテは、若年認知症の方、その家族の方、一緒に活動する方を中心に活動をしています。若年認知症は高齢の認知症と異なり、40～50代で発症することが多く、働き盛りの中で仕事ができなくなり、経済的に厳しくなる、家事ができなくなるなどの難しさがあります。
また、全国で3万8000人しかおらず、割合として1万人に4～5人です（高齢者は7人に1人）。非常に少数であるため、対応できる機関や同じ悩みをもつ仲間に出会うことが難しい現状があります。
ポンテでは仲間同士で定期的に会い、楽しく過ごすことを大事にしています。バーベキューをしたり、カラオケをしたり、旅行をしたり、一緒にお酒を楽しんだり。認知症の人としてお付き合いするのではなく、一人の友人としてお付き合いしていくことを大切にしています。





Facebookページもあります！

教育

SDGsの取組は小中学校の教育課程にも組まれ、各学校の実態に応じて、教科の学習や総合的な学習の時間、特別活動等の取組が始まっています。高校や大学でも継続的な学びに発展しています。

板橋区立向原小学校



総合的な学習の時間：学習のねらい
○自分で課題を見つけて追究する
○自分の考えを周囲に発信する

主な学習活動：児童に示した学習計画
1.「SDGｓ」って何だろう？
2.みんなが目指すのはどんな世界？
3.テーマをしぼろう
4.テーマについて調べよう
5.模造紙にまとめよう
6.発表しよう

児童が選んだテーマ
「地球温暖化」「ごみ問題」「食品ロス」「貧困」「平和」「エネルギー」「ウイルス」「学校にいけない子供」等

学習の成果
○身近な問題への関心が広がった
○「調べたことを多くの人に知ってもらいたい」と校長に「学校だよりに掲載して」と交渉するように、積極的に発信する態度が見られた
○学んだ成果を各自で意見文にまとめることができた

板橋区立赤塚第二中学校

学習のねらい
○身近な課題から世界の問題について考える
○学んだことを生かして自分の「行動宣言」をする

主な学習活動
1.近畿地方について環境と開発をテーマに学習する
2.「開発と環境」を対立ではなく両立の視点で考える
3.地球環境の状態、問題点を調べる
4.これからの地球を考える
5.今の自分にできることを考える



学習の成果
○課題解決のための行動目標を具体的に考えられるようになった
○世の中の事象を現実的な問題としてとらえるようになった
○自分の問題を地球規模で考えることができた

都立板橋高等学校

○ゲームと新聞でSDGsを学ぶ取組
～朝日新聞の出前授業
・カードゲームを通して、目標を達成する過程を学ぶ
・経済や環境など地球への影響を考えながらプロジェクトを進める難しさを学ぶ
・新聞記事からSDGsの目標との関連を考え、思考を可視化する
※2018年の実践（朝日新聞ニュースより）

○生徒の感想より
「利益の追求だけでなく他人との協調が大切と思った」「未来の地球のためにかかわらないといけないと思った」

帝京大学

○帝京大学ライフロングアカデミー公開講座
地域住民をはじめ、誰もが参加できる生涯教育の場を提供する。無料オンライン講座により、SDGsと関連性の深い大学の研究活動を公開している

○SDGsを達成する新しい大学での学びの追求
公民館での活動を通して地域住民と共に学ぶ大学づくり「持続可能な社会づくり」を行う仕組みを創る大学の役目～板橋でも、生涯学習センターと協力して進めていく

若者

ここ数年、急激に子ども・若者を取り巻く環境が変化しています。13歳から29歳までの日本を含む7か国の若者への調査（2013年）では、日本の若者は自己肯定感や意欲が低く、憂鬱で将来に希望を持っていないことが指摘されています。日本の未来を担うのは、この若者たちです。

受験専門無料塾ミンゼミ



家庭の経済的な事情から塾に通うことができない小学生・中学生向けに無料で受験指導を行っています。学費が安い都立高校合格をサポートすることが目的です。



代表　遠藤聡一さん

都立高校合格に向けて、通常は定期テスト対策を行います。入試前は過去問指導を行います。
勉強方法はマニュアル化し、効率的に勉強できるように工夫しています。年に2回、保護者会を開催し、受験校選定方法、都立過去問演習の方法、模試の受け方、入試直前の過ごし方などの情報を提供しています。
ミンゼミの指導を通じて、生徒さんの高校進学をサポートすることにより、未来を拓くことができると考えています。
依然として進学する高校・大学は将来の年収に影響します。偏差値の高い高校への進学のために、ボランティアスタッフは日々指導をしています。



【主な合格実績】
戸山【進学指導重点校】
駒場【進学指導特別推進校】
北園【進学指導推進校】
三田【進学指導推進校】
白鷗【都立中高一貫校】等

ミンゼミHP：
https://free-support.jimdofree.com/

NPO法人good！



2001年に活動を開始した、若者のきっかけづくりを応援するNPO法人です。元気な学生はもちろん、不登校・ひきこもり経験者を含む全ての若者が対象です。大学生を中心に、様ざまな経歴を持った、中学生から社会人の年代までの延べ3,600名の若者が参加しています。

good！HP：
http://good.blogdekoken.jp/



代表　磯田浩司さん

活動の中心は、ワークキャンプと呼ばれる合宿型のボランティア。アジアや日本各地で、ホームステイや共同生活をしながら現地の人々と共に汗を流します。井戸掘りや道路建設、酪農作業など、ワークの内容は様ざまです。
また、板橋区にある事務所は、フリースペースとして開放され、毎日たくさんの若者たちが集まり、交流する場となっています。共同生活寮も併設されており、生きづらさを抱えた若者たちが、スタッフや同世代の仲間と生活を共にしながら自立を目指しています。
その他、コロナ禍で孤独や不安を抱えている学生を対象に、きっかけづくりのプログラムを実施しています。今後も人との関わりが絶たれやすい状況が続くため、生き辛さを抱える若者たちへのサポートの必要性を強く感じています。






環境

環境はSDGsの17目標の中でも、様ざまな目標に関わると同時に基礎となるものです。気候変動による自然災害の多発や生物多様性への影響はとても大きく、重要です。まずは身近なところから取り組んでいくことが必要です。

株式会社エイアイティ



1983年の創業以来、逆浸透膜浄水器事業を手がけてきました。便利なだけでなく、環境にも配慮した製品を取り扱うことで浄水器を通して世界中に貢献したいと考えています。



代表取締役社長
田鍋文啓さん

＜高品質な浄水器で安全な水を世界中に届けます＞

エイアイティの浄水器『ハイドロピュア』シリーズは、様ざまな有害物質を除去できる逆浸透膜フィルターを用いて安全な水を造ります。公共施設や幼稚園・保育園等においても数多くの導入実績があり、様ざまな場所で幅広くご活用いただいております。

海外貢献にも積極的に取り組んでおり、2019年にはモンゴルの母子病院に浄水器を設置させていただきました。

また、近年力を入れている災害時用浄水器『きゃりーぴゅあぴゅあ』は持ち運びが簡単で電源も必要ないため、世界中のどこへでも安全な水を届けることが可能です。
(2015年 板橋製品技術大賞　防災・災害対応技術賞受賞)



＜環境に配慮した製品で、海の豊かさを守ります＞

浄水器『ハイドロピュアR.O.tation』は、造水に内蔵のタンクと水道水を使用することで次の2点を可能にしています。

①宅配水の運搬に必要な二酸化炭素の削減
②宅配水用ボトルの廃棄によって生じるプラごみの削減

災害時には風呂水や防火用水等からも浄水を製造できます。
(2019年 板橋製品技術大賞　審査委員賞受賞)



エイアイティHP ： https://www.hydropure.co.jp/

水未来人（みずみくにん）



『水を通じて人も地球も元気になる』を合言葉に、自然と人との調和を大事に海辺の環境教育・自然体験活動を行っているNPO法人です。



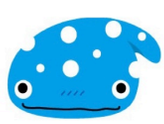
代表 矢作裕子さん

私たちの街「いたばし」も水の流れで海につながっています。
みずみくにんでは、海と街が仲良くなれるような活動を行っています。
「海を身近に感じる」「海を好きになる」「海で起きている問題を知る」ことで豊かな自然を守りたいという気持ちにつながるはずです。
また、子どもたちにとって自然体験活動は成長するうえでとても大事な栄養です。様ざまな家庭的事情や障がいがあって海や自然に接する機会の少ない子どもたちにもその活動の場を広げることを目指しています。
より豊かな自然が続くようにこの「いたばし」から海の声を届けていきます。









水未来人のキャラクター『みずみくちゃん』

団体紹介YouTube ： https://youtu.be/ptbd545SJLI
『届け！海の声。NPO法人水未来人（みずみくにん）』

ジェンダー

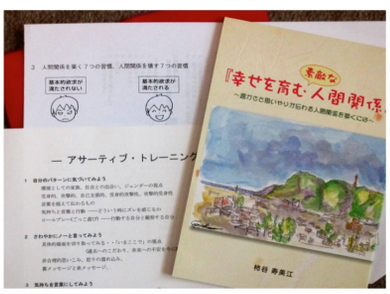
男女格差を図る2021年版ジェンダー・ギャップ指数（経済、教育、健康、政治から男女平等の度合いを測るもの）でみると、日本は156カ国中120位。G7中で最下位です。これは人権にも通じる問題ではないでしょうか。

温かい人間関係を築くサンクチュアリー

家族などの身近な人間関係を良好に保てるよう、日々のモヤモヤを語り合いながら、明るく前向きに生きられる方法を学んでいます。また、男女平等推進センターの登録団体として板橋区の男女平等推進事業に協力しています。



活動に関心のある方は、板橋区男女社会参画課を通じて、コンタクトいただけます。





◆定例会◆

子育て、パートナーとの関係、DVなどに起因する様ざまなストレスや悩みについて、悩む当事者に寄り添いながら対処法を温かい雰囲気の中でみんなで考える場です。その対処法のベースとなる「選択理論心理学」も学んできました。

定期的に男女平等推進センターで開催しており、情報交換の場にもなっています。



◆グループワーク◆

心理カウンセラーをチューターとして、ジェノグラムによる家族の行動分析、ロールプレイを取り入れたグループワークを開催しています。

◆板橋区との連携◆

男女共同参画週間行事、“あいサロン”などの事業に協力し、これまで「怒りのコントロール術」「家族内での不安とイライラ」などをテーマにワークショップを開催してきました。

男女平等12人会

男女平等推進センター
<スクエアー・I（あい）>
登録団体（発足：2010年4月）



<こんな事・あんな事しています>

■私たちの目標

私たちは、男女平等を当然の権利と考えます。
私たちは、性によるあらゆる差別があってはならないと考えます。
私たちは、男女平等社会実現のために様ざまなことをみんなで学び、考え、そして行動します。

活動に関心のある方は、板橋区男女社会参画課を通じて、コンタクトいただけます。

■私たちのとりくみ

2020 区民協働企画講座



男女共同参画週間取り組み



2020 I（あい）サロン



企業

尊敬される企業は、自らの繁栄のみならず、地域や地球環境、顧客や従業員やサプライヤーなども含めた全ての利害関係者に対して、社会的な責任を果たしている企業です。私たちはそうした企業とともに、学び合うとともに力を合わせてSDGsを推進していきたいと考えています。

株式会社アイカム



いのち響きあう世界を創る。アイカムは、いのちの科学映像の製作会社です。子どもや一般向けの科学教育映像、医療関係者向けの学術映像などの制作・販売を行っています。

アイカムのiは、いのちの基本、細胞膜の膜分子

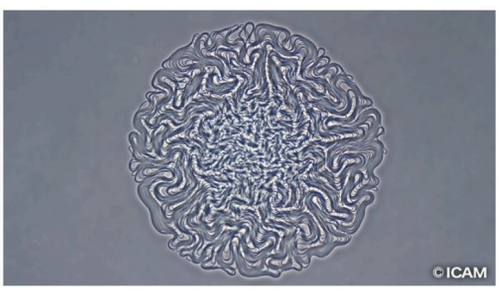
1968年創業、アイカムはいのちの顕微鏡撮影を得意として、いのちの美しさ、あたたかさを伝え続けてきました。私たち人間の体の働きも、私たちの腸内に棲む細菌たちが深く関わり合っています。私たちは一人で生きているのではない、みんなつながりあって生きています。
毎月、板橋区立文化会館小ホールにて、上映会を開催し、市民の皆さんにドーム映像「いのちのはじまり」「すべてのはじまり」をご覧いただいています。小中学校での出張上映や、いのちのお話も行います。下記の写真は、映画「なっとういのちの力」の上映会より。（代表取締役社長・川村智子さん）



小学校でのドーム
映像・出張上映



ドームの中、全天周に広がる
体内ミクロコスモス



増殖する納豆菌の作り出す
不思議な文様

ソルテラ グループ



あの手この手を尽くし、世の中をもっと住みやすく。身近な環境を守る力でサステイナブルな社会づくりに貢献。快適な社会や環境を創造する企業　“ソルテラグループ”。



グループ代表
石田太平さん

“ソルテラグループ”は中核となる㈱太陽油化が長年手掛けてきた再生重油の製造販売事業からスタートした廃棄物処理・環境対策ビジネスの会社です。
これ以外にも、電気工事を含む建設・解体事業や、自動車整備・レンタル事業、汚泥処理で得たバクテリアを活用した土壌改良剤の製造事業など、環境に良い様ざまな仕事を手掛けています。さらに“ソルテラグループ”は「連邦制多角化」をモットーに事業領域を広げつつありますが、その中で一見すると脈絡が薄いように思われる様ざまな事業をつなげているのがSDGsです。つまり“ソルテラグループ”はSDGsに資する事業を選好的に実施することで成長機会を模索する会社である、ということができるのです。







文化･芸術

文化･芸術は、人びとの社会生活に豊かさをもたらせてくれます。文化･芸術の力で世代や業種を超えた豊かな人間関係を作り、「誰も置き去りにしない･させない」地域社会を作っていきましょう。

劇団銅鑼



1972年創立、新劇の発祥である築地小劇場の開演時に銅鑼を鳴らしたことから命名されました。「平和」と「人間愛」「本当に人間らしく生きるとは何か」をテーマに「人々のくらしに演劇が溶け込み心豊かな人生の糧となること」を目指して、創り続けていきたいと思っています。



表現活動理事
佐藤文雄さん
（前劇団代表）

板橋区で活動して32年。中台1丁目の稽古場（上板橋駅徒歩10分）を拠点に、オリジナル作品をアトリエや東京芸術劇場（池袋）などで上演しています。地域の皆様との交流の場「どら猫ひろば」や平和公園での「平和盆踊り」に参加し、青少年に豊かな文化を願い、全国の小･中･高校･こども劇場や文化庁公演などで巡演しています。また、全国演劇鑑賞会での公演も行っています。94年からは、リトアニアでの初の海外公演をきっかけに国際交流や「演劇の力を社会に生かす」をテーマに、演劇ワークショップ講師派遣、「若者自立支援」にも取り組んでいます。東日本大震災を機に「人形劇クラブ」も発足し、被災地支援のボランティア活動も行っています。

「いのちの花」より▶



SDGｓ「人形劇と歌と腹話術によるプロジェクト」動画完成
（劇団銅鑼ＨＰ→ＹouTube→動画→タイトルでも視聴できます）

劇団銅鑼HP：
http://www.gekidandora.com/
Mail：info@gekidandora.com

（特非）こども劇場いたばし



板橋区を中心に、芸術文化体験活動や創造表現活動、あそびや自然体験活動を通して、子どもたちが心豊かで伸びやかに育つ地域をつくるための活動をしているNPO法人です。



SDGs担当理事
植田ひろ子さん

こども劇場いたばしは、子どもたちを中心に文化活動を通じて人と人が知り合い、自分たちが生活する地域をより暮らしやすくするために40年活動を続けています。人が集い楽しみながら共有する場をつくり合い、心が動く瞬間を生み出すことが文化活動です。生の舞台を家族や友達と一緒に観る体験は、テレビや映画、YouTubeとは全く違った感動が生まれます。また、子どもたちにもおとなにとっても文化芸術･あそびを通じて人と出会いコミュニケーションを広げ深めていくことは柔軟な心を育むうえで大事な要素の一つです。
コロナの状況が落ち着くまで、最善の対策を取りつつ、少しでも子どもとおとなもワクワクできるような取り組みを続けて行きたいと願っています。





こども劇場いたばしHP：
https://kodomogekijouitaba.wixsite.com/kodomogekijouitabasi

平和

世界では様ざまな争いや差別により「人間の尊厳」が侵害されている事例が多くあります。外国籍の方がたにとっては、この日本でもそうした問題が起きています。私たちは視野を広げ、世界の人びととも連帯していく必要があります。

特定非営利活動法人APFS

Asian People's Friendship Society



APFSは、地域社会に暮らす外国籍もしくは外国にルーツを持つ住民と日本人住民が共に生き、助け合う社会の実現を目指しています。



代表理事
吉田真由美さん

APFSでは外国籍の方々に対する相談事業を活動の中心としています。在留資格の相談はじめ、結婚・離婚、税金や医療など生活全般に関する相談を受け付けています。相談では情報の提供だけでなく、相談者と共に問題解決を目指す「解決型相談」を目指しています。また、相談活動であがった声を自治体や政府などに提言し外国籍住民の基本的人権擁護につなげていく活動も行っています。こうした活動にプラスして、外国籍の方々の実情をご理解いただく、主に日本人住民を対象としたシンポジウムの開催、外国籍の方々が日本でより充実した生活を送れるよう様ざまな講座を実施しています。



子ども行動



移住労働者の集い



相談風景

ひろがれ！ピース・ミュージアムいたばし



板橋にピース・ミュージアムを！「繋がる力」が平和を創る！
①「学び合いの場」②「居場所」③「記憶と継承の場」④「文化の創造と発信の場」を作り拡げる活動を市民主体で行います。

<共同代表>



長田光子さん



小泉尊聖さん

①「学び合いの場」は人間らしく生きる、平和のための共同の学びの場。出会いと繋がりを生む学びを創る場です。平和学習やフォーラム等を企画・開催します。
②「記憶と保存の継承の場」は、資料を収集・整理し展示する場です。記録を作成、公開し、証言を聞き取り、語り継ぎます。
③「文化の創造と発信の場」は、表現活動を通じ共感力と想像力を高めます。思いを発信して、人との繋がりを目指します。表現と発表の場を提供します。
④「居場所」は自分を取戻し、見つめ直す、自分を肯定し、力を蓄える、出会いと学びに繋がる場を創ることです。これまでピース・カフェ、市民劇、中学生と大人達が学びあう講座「これからのしあわせのかたち」への参画・協力、ピース・フェスティバル、平和博物館巡り等を実施してきました。



ピース・カフェ



これからのしあわせのかたち



ピース・フェスティバル

板橋SDGsのこれから

地域の諸機関との連携・協働を進めます

SDGsいたばしネットワークは、区内外の諸機関や住民と共に、「誰も置き去りにしない、共生社会の実現」に向けて活動を進めています。小中学校での児童・生徒の学びへの協力・連携や、企業との連携、町会等地域への支援・協力を呼び掛けています。

■ 板橋区内小・中学校等の学習や授業への協力

～例：上板橋第二中学校の学習での実践（2021年3月）～

生徒がグループごとに、SDGs17の開発目標から課題を選び、問いを立てて学習したことを発表する場に参加させていただき、感想や助言を伝えました。

生徒の「問い」の例

・宇宙ゴミが及ぼす問題点とは何か
・LGBTの人が堂々と過ごす社会
・プラスチックを環境にやさしく
・温室効果ガスの問題と解決策
・持続可能な農業とは
・絶滅危惧種を保護する理由

生徒の感想より

・自分たちが今、何もしなければ、何十年後かに苦しみが返ってくると思った。
・今回お話を伺って、SDGsのテーマはすべてがつながっていると知り、自分の小さな行動が地球に大きな影響を与えるかもしれないと思った。
・調べたその先が大切であり、身の回り→地域→国と小さなことから積み重ねて規模を大きくしてSDGsの活動が当たり前の世の中にしたい。そのために自分が行動していこう。

参加協力した会員の感想より

・中学生がインターネットを活用して企業や関係団体に直接働きかけるスキルの高さに驚いた。
・地域のボランティアとして参加したいという中学生の発言もあり、地域の素晴らしい未来が約束されていると感じて頼もしく思った。

■ 区役所、地域センター、まなぽーと大原/成増、等への事業協力

～例：まなぽーと成増の事業との連携（2021年3月）～

地域で進める【みんなの学びの広場】キックオフフォーラムとして、まなぽーと成増でNHKスペシャル「2030未来への分岐点 第1回 暴走する温暖化：脱炭素への挑戦」の視聴シンポジウムを開催。NHK大型企画開発センターのディレクターと東京大学教授の2名による提案と参加者との協議により、問題の掘り下げを行いました。参加者は学生からシニアまで約50名。今後は、各地域ブロックの学びの場において、引き続き「未来への分岐点」をテーマとした学習会を行っていきます。



■ 企業との連携・協力

～例：産業見本市への出展（2019年・2020年11月）～

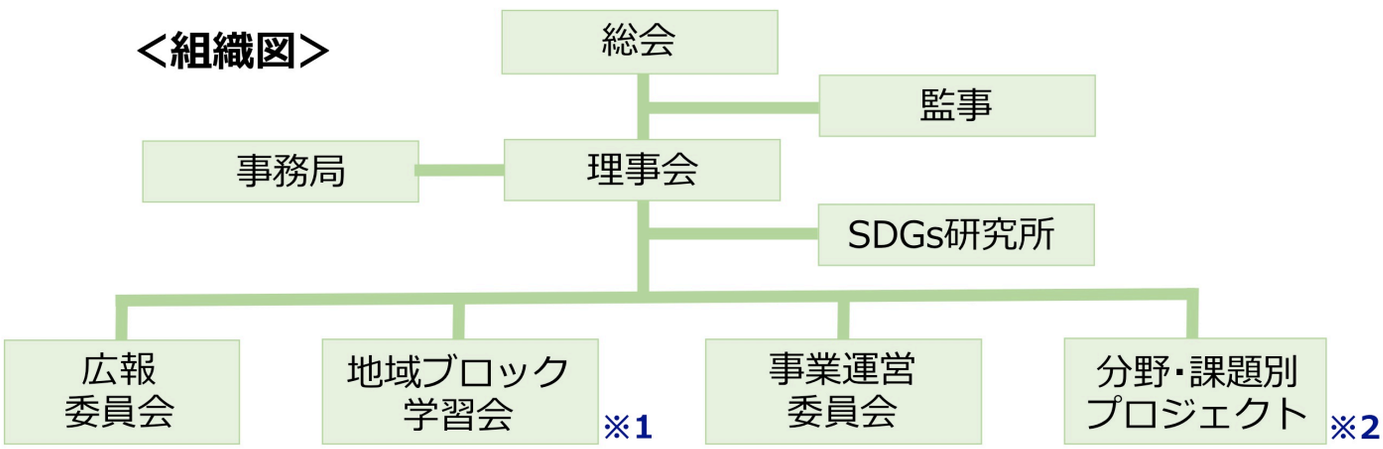
毎年恒例の「いたばし産業見本市」には、板橋区内の企業が集まる中、私たちは2019年と2020年に参加して、企業活動におけるSDGsの意義と私たちの活動を、展示パネルや動画を通してアピールさせて頂きました。今後もこうした機会を通じて、広く企業の皆様とも連携をめざしていく所存です。

板橋区にかかわる誰もが、活動の主体や協力者となって

SDGsいたばしネットワークは、SDGsの理念である「誰も置き去りにしない」の視点に立って共に学び合いながら、国籍を問わず、子ども・若者から高齢者まですべての市民が生き生きと暮らし続けることができる持続可能な地域・共生社会の実現を目指す活動を行うために、特定非営利活動法人を設立しました。活動に賛同する多くの団体、個人が主体的に関わりながら、事業展開をしています。

■特定非営利活動法人SDGsいたばしネットワーク：活動イメージ

SDGsいたばしネットワークは、下図のように4つの事業と研究所で活動を推進し、メンバーで話し合いながら様ざまな課題に取り組んでいます。



※1：区内を6地区ブロックに分けて、主にSDGｓの普及・共有と個々の課題の発見を図ります。
共生社会の実現を目指します。

※2：関係諸機関や企業とも連携して、置き去りにされている課題の追究と解決を図ります。
誰一人取り残さない社会の実現を目指します。

■主役は、私たち板橋区民

2021年８月現在、SDGsいたばしネットワークには130の団体をはじめ個人が参加して、本誌でご紹介したようなSDGsの17の目標をめざした様ざまな活動を続けています（掲載の一部には会員外の活動も紹介）。これからも、一人ひとりの課題解決に向けて、力と知恵を出し合い活動を推進していきます。

SDGsいたばしネットワークでは、誰もが活動の主体であり、お互いの協力者となります。まだご登録されていない方は、まずはご連絡いただき一緒に仲間として活動しませんか？
活動への寄付、ボランティア等も募集しています。

活動に賛同いただける方は個人、団体（組織）問わずどなたでも会員として参加できます。
ご興味のある方は、ぜひ下記の事務局までご連絡ください。

＜年会費＞

会　員	会　費	備　考
正会員	1,000円	※会費は入会申込日から3月31日の事業年度終了日までとなります
賛助会員	5,000円（1口以上）	

＜連絡先＞

特定非営利活動法人SDGsいたばしネットワーク

東京都板橋区板橋3-63-5（みんなのたすけあいセンターいたばし内）
TEL:03-5944-1366　FAX:03-5943-1888　Email:sdgs-itabashi@mbr.nifty.com



※本誌の制作にあたっては、「麦の穂基金」の助成をいただき作成しました。

特定非営利活動法人

SDGsいたばしネットワーク

東京都板橋区板橋3-63-5（みんなのたすけあいセンターいたばし内）

TEL:03-5944-1366　FAX:03-5943-1888

Email:sdgs-itabashi@mbr.nifty.com

発　行：特定非営利活動法人SDGsいたばしネットワーク

編　集：植田ひろ子/岡本達思/加藤勉/神元幸津江/下島幸泰/薬師神典子（50音順）

発行日：2021年9月1日（第1刷）

頒布価格：300円